

千葉県八千代市

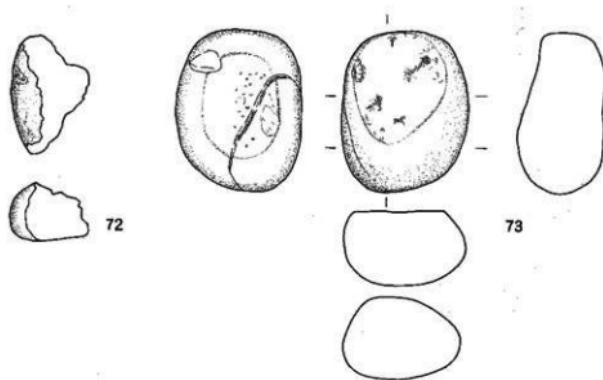
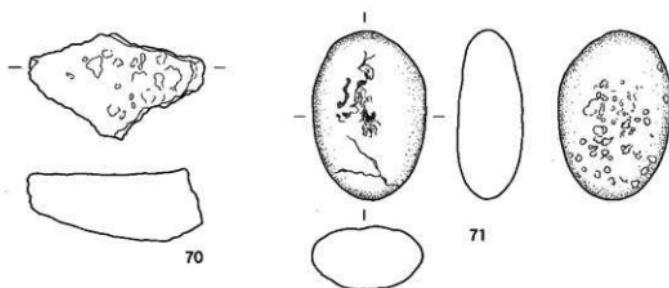
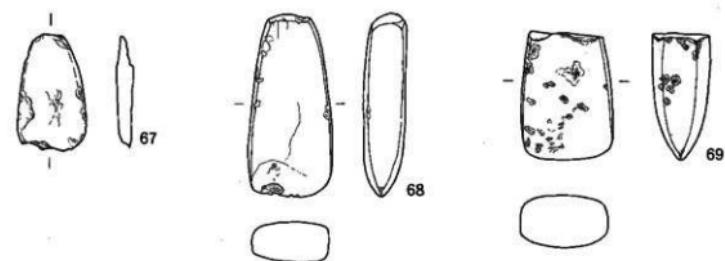
浅間内遺跡発掘調査報告書

浅間内遺跡 第2次本調査

浅間内遺跡 第3次本調査

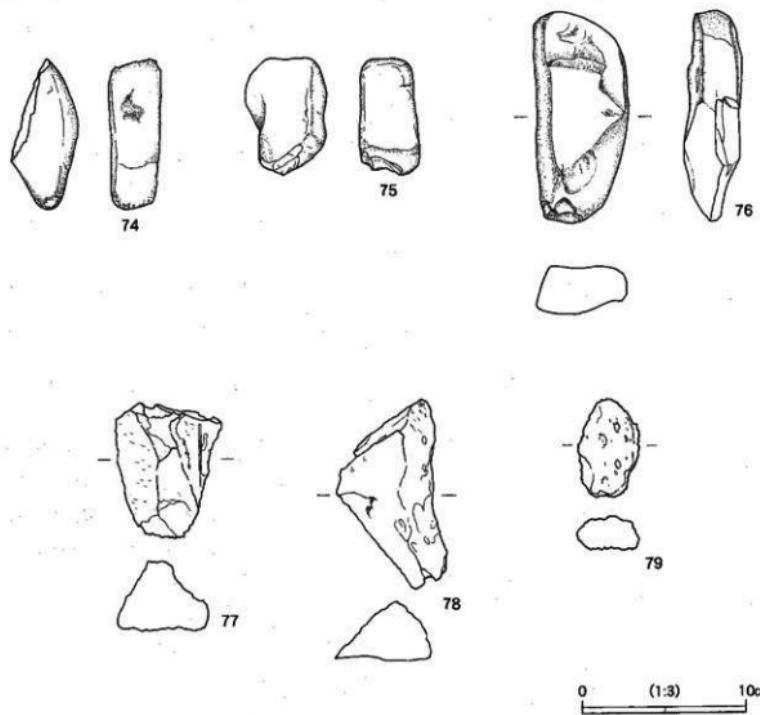
平成18年度

八千代市教育委員会



0 (1:3) 10cm

第51圖 K1 古墳出土石器（2）



第52図 K1古墳出土石器(3)

(6) その他の遺構及び遺構外出土の縄文時代遺物

主に縄文時代以外の遺構及び遺構外から出土した縄文時代の遺物を報告する。早期撫糸文、前期興津式、中期五領ヶ台式・阿玉台式・加曾利E式などの土器類、土器片鉢、石器・打製石斧・敲石などの石器類、黒曜石剥片などである。

縄文土器（第53図～第56図）

1～18は、早期撫糸文系土器である。概ね井草式～夏島式の範囲にはいるものと考えられる。色は、淡褐色が多く、胎土には細砂を含む。1・2は、頸部に横方向の縄文が施されている、井草I式であろう。その他は瓶底に施文されており、8を除いては、II唇部の肥厚が弱く、外反も著しくない。井草II式～夏島式が主体を占めるものと考える。

1・2とも縄文の節が不明瞭。1 (D34-374)。2 (D37-264)。3 口唇部は、RL縄文、腹部は、節が不明瞭。井草II式。(D41-25)。4 RL縄文。(D47-17)。6 縄文不明瞭。(D34・括)。7 底部付近。丸底であろう。縄文不明瞭。(D53-12)。8 LR縄文か。(D63-84)。9 縄文不明瞭。(F8-77-3G)。10 撫糸文L施文。(F8-79 G)。11 RL縄文か。(F8-84G)。12 RL縄文施文。井草II式。(F8-66-1G)。13 RL縄文か。(F8-66G)。14 無筋R施文か。(F8-85-3G)。15・16 LR縄文か。(F8-97G)。17 RL縄文か。(F9-8-2G)。5 RL縄文。(P316-3)。

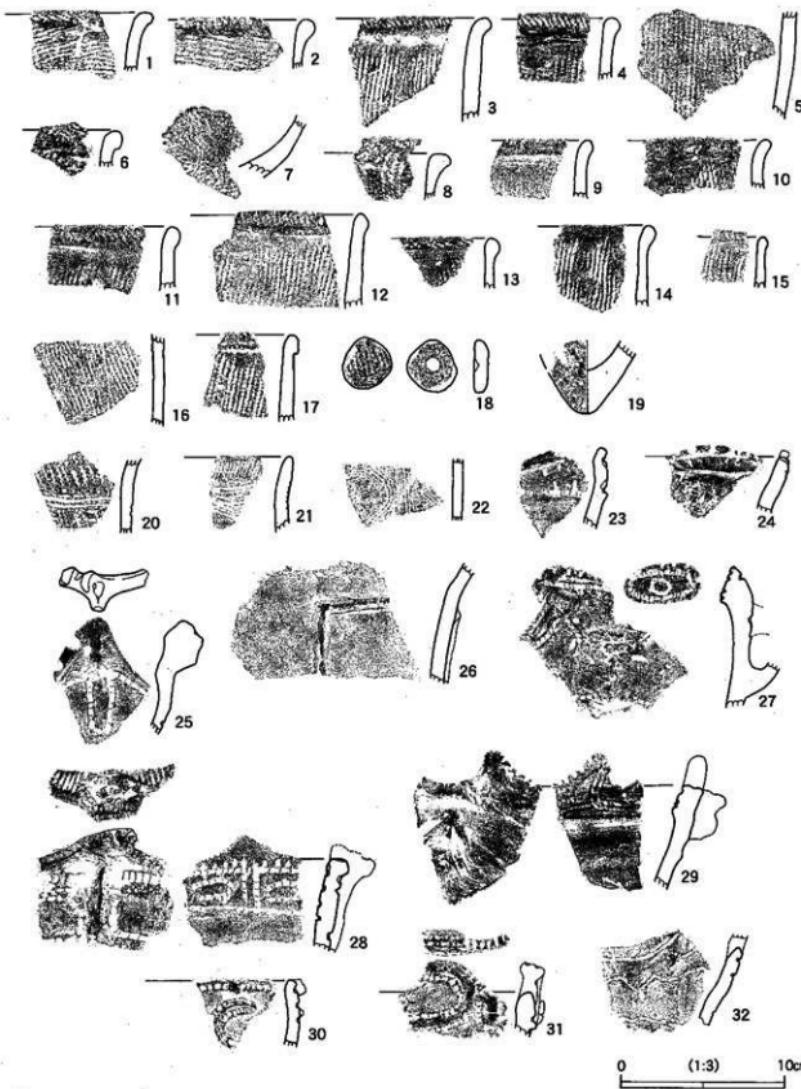
18 土製円盤。撫糸文系土器片を円形に整えたもの。内面の円形の窪みは、焼成後穿孔の途中のような状態。撫糸文Rか。(F8-99-3G)。

19 尖底部。外面ヘラ削り。(M11東西-187)。

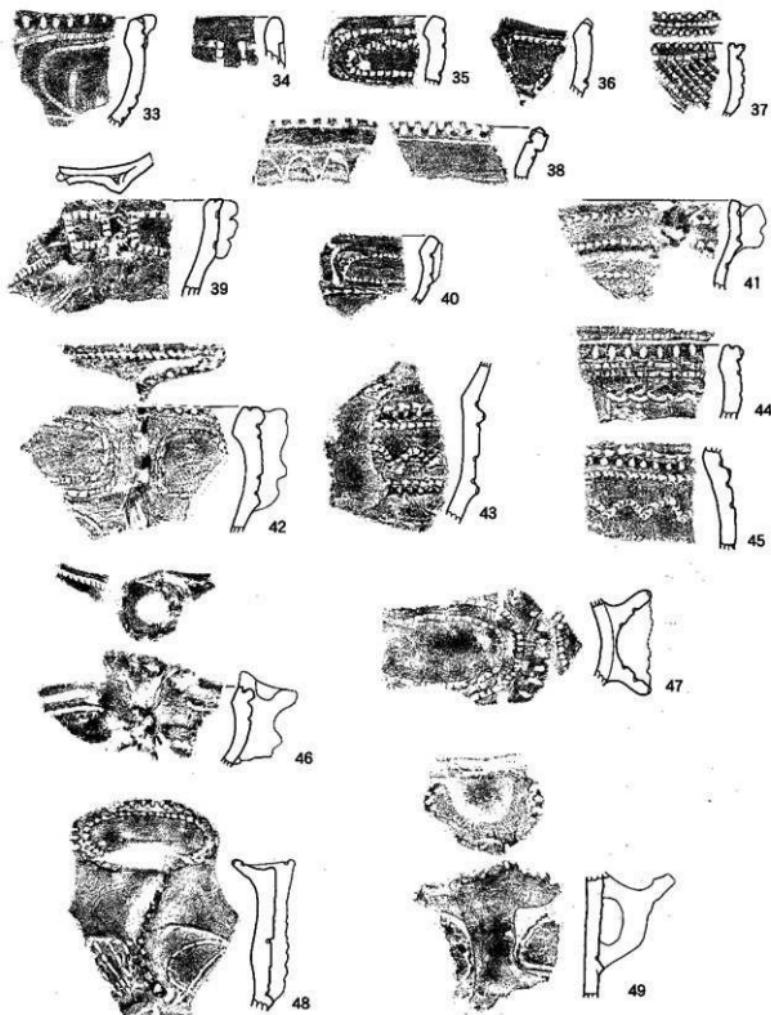
20～22は、前期後半の興津式。20 放射肋のある貝殻の腹縁文を地文とし、半切竹管による平行沈線。(D66-10)。21・22は、細い沈線が平行して引かれ曲線・直線の文様を構成する。(F9-5-1G)。

23以降は、中期の土器。やはり主体は、阿玉台Ib式である。23 波状口縁深鉢。結節沈線文（竹管IIA種）と交互刺突文。五領ヶ台式。(F9-6G)。24 浅鉢。口唇上に突起、外面に輪積痕。(F8-65G)。25 波状口縁深鉢。波底部。左に刻みのある非対称の突起。結節沈線文（IかIIA種）。26 雲母・石英含む。深鉢胴上部。隆線がL字形に貼付される。25・26は、阿玉台Ia式。(F9-17-3G)。27～32は、非対称の突起・内文・棒状文の未発達などIa式の要素をもつ土器である。27 特徴的な突起の内外に結節沈線による文様が描かれている。(P540-4)。28 非対称の突起。突起上に円形竹管文。外面は、隆線沿いに結節沈線文（IかIIA種）。内文は、連続刺突と結節沈線文とで直線と格円の文様が描かれる。(M11東西-76)。29 雲母含む。特徴的な突起、結節沈線文と小円文による内文。（I 2-16）。30 小型深鉢。復元口径11.2cm。結節沈線文（IIA種）。(F8-85-3G)。31 突起と隆線が連結。結節沈線文(F9-30-1G)。32 細い結節沈線文が蛇行している。(F9-20-4G)。

33～50は、阿玉台Ib式。33 結節沈線文（IIA種か）。(M20)。34 雲母・石英・長石含む。(D27-173)。35 結節沈線文（IIA種）。(D27-47)。36 雲母・石英・長石含む。結節沈線文（III A種）。(D27-64)。37 結節沈線文が多用される。(D67一括)。38 復元口径24.8cm。口唇上に交互刺突の刻み。結節沈線文（III A種か）。(F9-20-4G)。39 この結節沈線文は、竹管でなく角棒状のもので施文している。(F9-89G)。40 結節沈線文（IIA種）。棒状文。(P420-3)。41 復元口径16cm。この縦長の突起の芯には、粘土棒が無い。(D24-160)。42 復元II径80cmと大きい。雲母・石英・長石。(M11北西-南東)。43 結節沈線文（IIA種）。突起がはずれた痕跡。(F9-20-1G)。44 復元II径31cm。結節沈線文（II A種）。(M12)。45 脱上部曲部付近。結節沈線文（IIA種）。(F9-17-3G)。46 復元口径24cm。雲母・長石。円形突起。(F9-20-1G)。47 隆線が大きく発達。結節沈線文（II

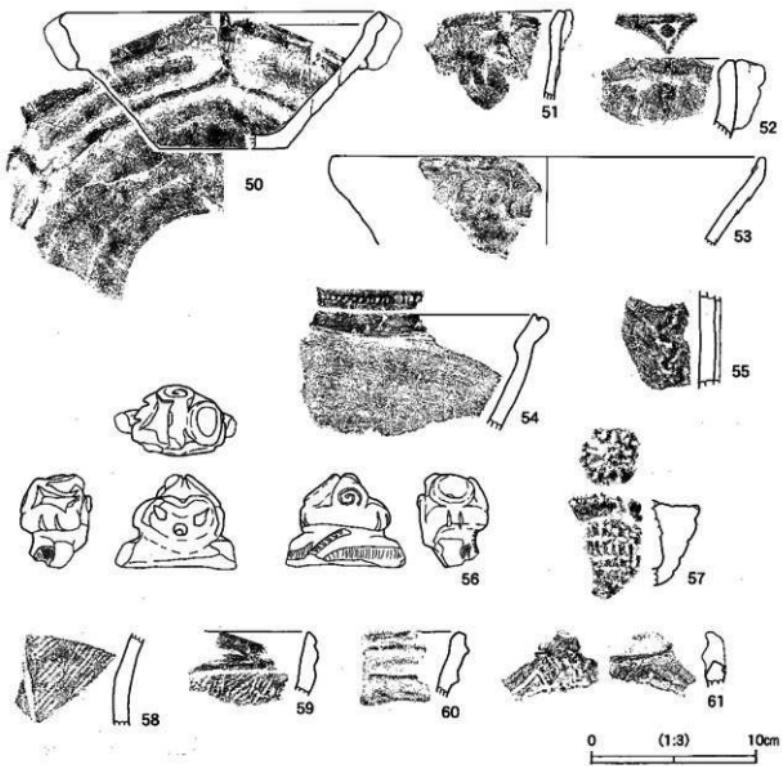


第53図 その他の遺構及び遺構外出土縄文土器 (1)



0 (1:3) 10cm

第54図 その他の遺構及び遺構外出土繩文土器 (2)



第55図 その他の遺構及び遺構外出土縄文土器（3）

A種)。(M11北西-南東)。48 上面観楕円形の突起。(M12)。49 円形突起と橋状把手が連結。(F9-30-1G)。50 浅鉢。約1/2個体。高さ8.4cm、復元口径19cm、復元底径7.8cm。灰褐色・淡褐色・灰色。雲母多・石英・長石、粗い。縦長突起から連結する隆帯による棒状文。輪積痕、内面ナデ・ミガキ。(M11北西-南東-210, 191など)。

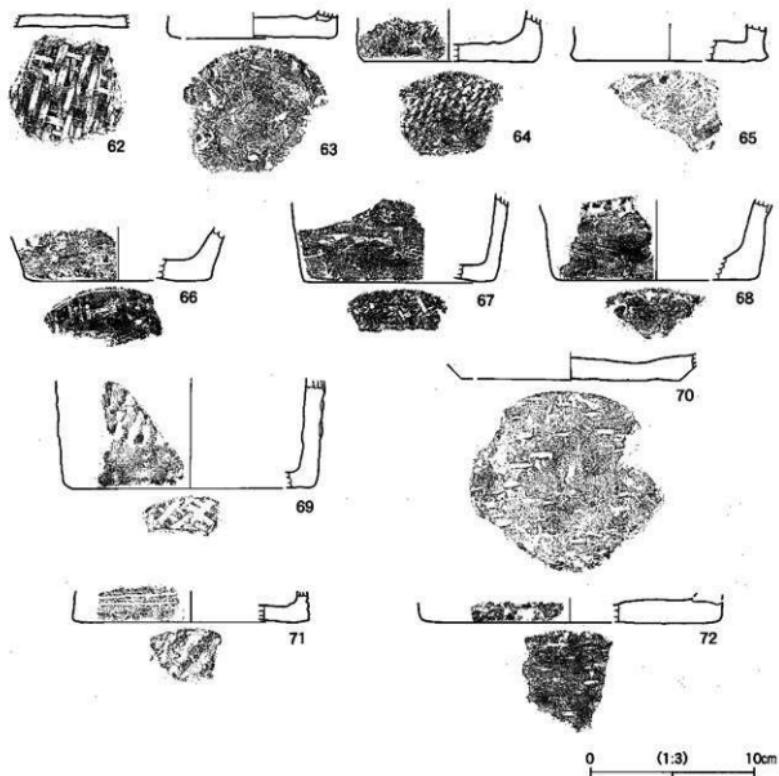
51 縦長の突起(一部欠損)、ひだ状文が変容した爪形文。(M11北西-南東)。52 鉢か。粘土棒を芯とする縦長の突起。(P188)。53 浅鉢。復元口径25.6cm。輪積痕。(F8-85-3G)。54 浅鉢。波状口縁であろう。口縁上に結節沈線文(IIA種)。(M12)。

55 縦方向の蛇行隆線。P63で類似品が出土している。(D27)。

56 顔面把手。褐色・灰色。長石、粗い。外面は、渦巻文、刻みのある隆線、爪形文に近い結節沈線文(IIA種)。内面に顔面、ハート形の輪郭、窪みで目口を表現、頭部は、円文など。(F9-7G)。

57 把手。刻み、結節沈線が多用される。(D71-456)。

58~61は、阿玉台式以降の縄文土器である。本遺跡においては、極めて希薄な時期となる。しかも60・61は、時期判断のむずかしい資料である。58・59は、加曾利E式、同一個体か。R L 縄文施文。58 (D50-72)。59 (D50-



第56図 その他の遺構及び遺構外出土縄文土器（4）

37)。60 横走する隆起線2条。加曾利E4式か。(F9-20G)。61 波状口縁深鉢か。突起。R L 縄文、隆線、沈線が見えるが欠損部があり詳細不明。後期縄之内1式か。(F8-66-1G)。

62～72は、底部。底外面に網代痕が見えるものが多いが、いずれも消そうとしたらしく痕跡が薄くなっている。

62 底面のみ。比較的明瞭な網代痕であるが、それでも少し消されている。(F9-20-1G)。63 深鉢。復元底径10.2cm。底外面ミガキ。(M11東西-161)。64 深鉢。復元底径11cm。網代痕。(M11東西-109)。65 深鉢。復元底径12cm。網代痕。(F9-30-1G)。66 深鉢。復元底径11.2cm。網代痕。(F9-20-1G)。67 深鉢。復元底径11.4cm。網代痕。(D27-56)。68 深鉢。復元底径12.3cm。ひだ状文。底外面ミガキ。(F9-20-1G)。69 深鉢。復元底径15.2cm。ひだ状文。網代痕。(F9-30-1G)。70 浅鉢か。復元底径13.2cm。雲母。網代痕まばら。(M11東西-166)。

71 深鉢。復元底径14.2cm。雲母。横方向の浅い沈線が2条巡る。網代痕はほとんど消している。(F9-30-1G)。72 深鉢。復元底径18cm。底外面ミガキだが、網代痕を消しているのであろう。(M11東西-180)。

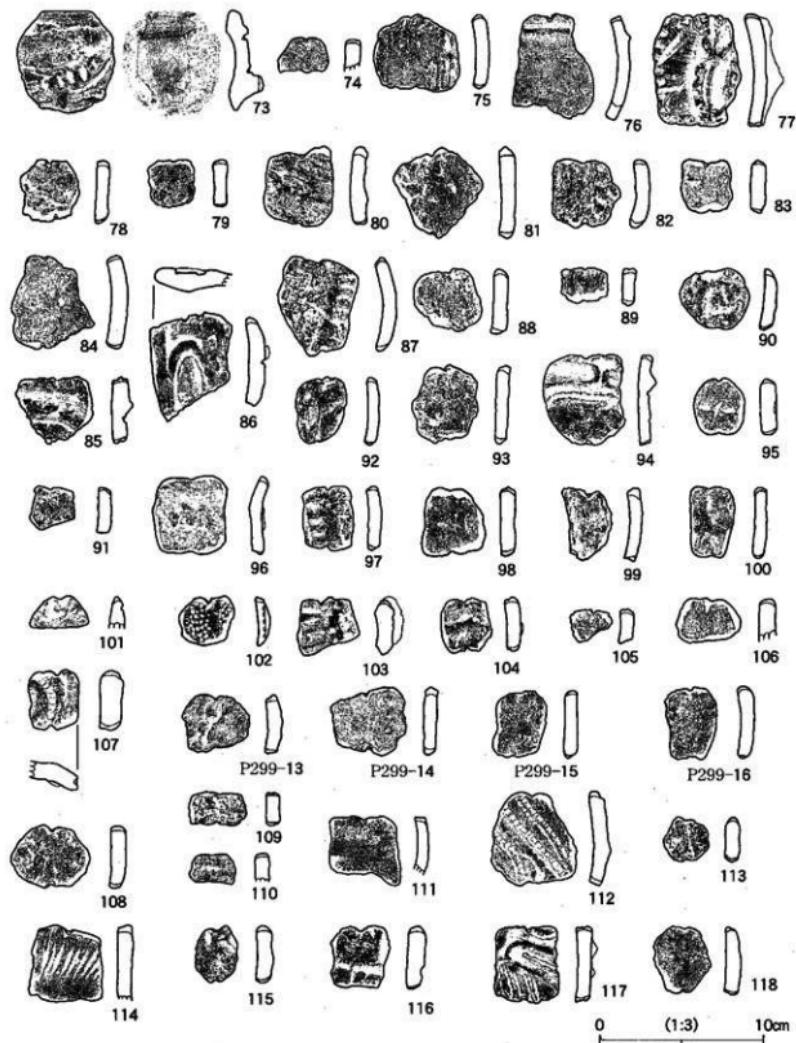
土製円盤（第57図）

73 口縁部。縁辺を打ち欠いて円形にしている。51.9 g。外面褐色、内面暗褐色。雲母・長石・石英。円形竹管による連続刺突、結節沈線文、押圧のある隆線。（P 538-1）。なお、この他早期撫糸文系土器の土製円盤も1点出土している（第53図18）。

土器片錐（第57図）

土器片錐は、原則として、「No. 形状。部位。縁辺（割れ口）の調査。溝の数と状態。重さ。文様などの特徴。（取り上げNo.）」を記載したが、適宜項目を省略している。

74 半欠。平滑。溝一箇所明確。（7.3 g）。無文。（D16-209）。75 五角形。やや平滑。溝一对不明確。27.2 g。（I 3-20）。76 不定形。やや平滑。溝一对、明確と不明確。29.6 g。隆線。（I 2）。77 長方形。打ち欠き。溝一对やや明確。51.7 g。阿玉台式。（I 3）。78 楠円形。打ち欠き。溝一对やや明確。13.3 g。雲母。（I 3-110）。79 正方形。打ち欠き。溝一对不明確。9 g。雲母。阿玉台式。（I 3）。80 長方形。やや平滑。溝一对明確。27.3 g。（I 3-167）。81 菱形。打ち欠き。溝一对やや明確。26.4 g。雲母・石英・長石。（I 3-69）。82 五角形。打ち欠き。溝一对明確。19.2 g。ひだ状文。阿玉台式。（D 19-38）。83 正方形。やや平滑。溝一对やや明確。13.4 g。（D 22-3）。84 五角形。打ち欠き。溝一对明確。35.4 g。（D 23-35）。85 楠円形。打ち欠き。溝一对やや明確。22.9 g。雲母。隆線、沈線。阿玉台式。（D 23-483）。86 方形。口縁部。打ち欠き。溝一箇所やや明確。38.8 g。雲母・石英。隆線、沈線など。阿玉台式。（D 23-220）。87 五角形。やや平滑。溝一对やや明確。29.7 g。雲母など。爪彫文。阿玉台式。（D 24-60）。88 楠円形。平滑。溝一对明確。17.3 g。雲母。沈線。阿玉台式。（D 34-420）。89 長方形。打ち欠き。溝一对明確と不明確。7.4 g。雲母。阿玉台式。（D 35-64）。90 円形。平滑。溝一对不明確。15 g。雲母など。阿玉台式。（D 38-191）。91 五角形。打ち欠き。溝一箇所明確。7.1 g。（D 35）。92 楠円形。やや平滑。溝一对やや明確。10.7 g。（D 33-55）。93 楠円形。やや平滑。溝一对やや明確。17.9 g。雲母。阿玉台式。（D 35-1）。94 楠円形。やや平滑。溝一对明確。31.7 g。雲母。隆線、結節沈線文。阿玉台式。（D 38-74）。95 楠円形。平滑。溝一对明確。13 g。（D 55-68）。96 長方形。やや平滑。溝一对やや明確。24.5 g。雲母など。ひだ状文。阿玉台式。（D 61-73）。97 長方形。打ち欠き。溝一对明確。13.2 g。雲母など。ひだ状文。阿玉台式。（D 65-45）。98 方形。やや平滑。溝一对明確。21.7 g。ミガキ。（D 67-134）。99 楠円形。平滑。溝一对明確と不明確。11.7 g。雲母など。阿玉台式。（D 68-32）。100 長方形。やや平滑。溝一对やや明確。10.8 g。雲母。阿玉台式。（D 72-96）。101 楠円形。半欠。平滑。溝一箇所明確。6.6 g。刺突文。阿玉台式。（D 72-590）。102 楠円形。一部欠。やや平滑。溝一箇所明確。8.4 g。小円形刺突文、隆線。猪沢式。（M11東西-92）。103 方形。半欠か。打ち欠き。溝一箇所明確。19.9 g。縱長の突起。阿玉台式。（M12）。104 楠円形。やや平滑。溝一对明確。12.5 g。隆線。阿玉台式。（D 71-359）。105 半欠。やや平滑。溝一箇所明確。4.9 g。雲母。（D 71）。106 楠円形。半欠。やや平滑。溝一箇所明確。14.4 g。（D 72-109）。107 長方形。口縁部。やや平滑。溝一对明確。18.5 g。隆線、結節沈線文（II A種）。阿玉台式。（D 71-238）。P 299-13（P 299の遺物No.は、第239図による。以下同じ。）楠円形。口縁部。やや平滑。溝一对やや明確。15.4 g。ひだ状文。阿玉台式。（10）。P 299-14 方形。やや平滑。溝一对明確。19.6 g。（11）。P 299-15 長方形。やや平滑。溝一对不明確。15.2 g。雲母など。阿玉台式。（51）。P 299-16 長方形。打ち欠き。溝一对明確と不明確。16.1 g。阿玉台式。（149）。109 長方形。打ち欠き。短軸溝一对やや明確。8.4 g。（P 449-2）。108 楠円形。平滑。溝一对明確。19.6 g。雲母など。阿玉台式。（F8-77-3G）。110 半欠。やや平滑。溝一箇所やや明確。4.8 g。（E8-100-3G）。111 半欠。打ち欠き。溝一箇所明確。16 g。（F8-77-3G）。



第57図 その他の遺構及び遺構外出土土製円盤・土器片鱗

- 112 梨円形。やや平滑。溝一对明確。31.5 g。雲母。隆線と結節沈線文。(F8-81-3G)。113 円形。平滑。溝一对やや明確。8.2 g。(F9-36G)。114 正方形。打ち欠き。溝一对明確と不明確。24.5 g。爪形文。(F8-81-3G)。115 梨円形。平滑。溝一对明確。11 g。ひだ状文か。阿玉台式か。(F9-9-2G)。116 長方形。やや平滑。溝一对不明確。16.3 g。沈線。阿玉台式。(F9-26-2G)。117 長方形。打ち欠き。溝一对やや明確。28.6 g。隆線、結節沈線文。阿玉台式。(F9-30-1G)。118 梨円形。打ち欠き。溝一对明確。16.2 g。(F9-30-1G)。

石器・石製品（第58図～60図）

計測値は、長さ×幅×厚さ（単位：mm）、重さである。

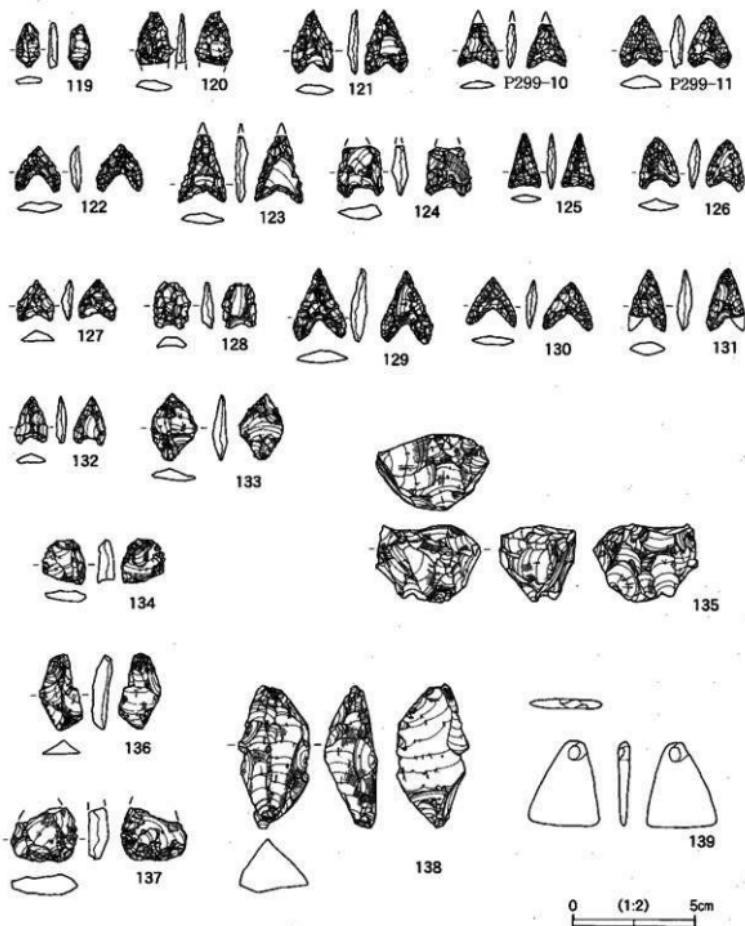
- 119 石鎚。18.21×9.1×4.1, 0.66 g。黒曜石（神津島産、以下の黒曜石もすべて同じ）。(F9-18-2G)。120 石鎚。21.32×14.28×4.84, 1.2 g。黒曜石。基部欠損。(F9-28-1G)。121 石鎚。25.34×16.81×3.68, 1.24 g。黒曜石。(F9-15-3G)。P299-10 (P299)の遺物No.は、第239図による。以下同じ。) 石鎚。17.5×16.2×3.26, 0.74 g。チャート。先端部欠損。(17)。P299-11 石鎚。20.5×16.76×4.7, 1.18 g。黒曜石。(119)。122 石鎚。18.91×18.03×3.51, 0.74 g。黒曜石。H 7 のP9出土。(P472-7)。123 石鎚。27.11×18.6×4.02, 1.44 g。チャート。先端部欠損。(D19-60)。124 石鎚。19.99×17.62×5.52, 2.08 g。黒曜石。先端部欠損。(M11東西-153)。125 石鎚。21.92×12.72×3.4, 0.66 g。チャート。(D24-107)。126 石鎚。21.17×15.8×4.5, 1.2 g。黒曜石。(D70-83)。127 石鎚。16.02×14.35×4.96, 0.7 g。黒曜石。(D71-542)。128 石鎚。18.66×13.91×4.81, 1.24 g。黒曜石。被熱。(P518-2)。129 石鎚。28.98×20.39×4.94, 1.72 g。黒曜石。(F9-30 G 表面採集)。130 石鎚。19.84×20.01×3.57, 0.68 g。チャート。(表面採集)。131 石鎚。25.76×14.83×5.0, 1.42 g。頁岩。基部の一部欠損。(表面採集)。132 石鎚。18.79×12.63×3.26, 0.7 g。流紋岩。(M18)。133 石鎚。26.98×18.62×4.98, 1.58 g。黒曜石。(I 2-27)。

- 134 二次加工のある剥片。17.5×17.25×5.54, 2.0 g。黒曜石。(D54-96)。135 石核。31.81×44.04×31.31, 43.02 g。黒曜石。P555風洞木痕から出土。(48)。136 剥片。31.22×14.9×5.7, 2.64 g。黒曜石。(F9-28-1G)。137 剥片。21.33×27.02×7.85, 4.74 g。黒曜石。欠損。(D37-87)。138 剥片。58.62×29.3×20.19, 25.42 g。黒曜石。(F9-37-2G)。

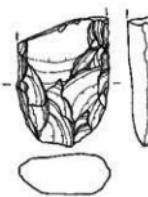
- 139 乗飾。35×29×4.5, 6.7 g。斜めに穿孔されている。(D21-877)。

- 140 打製石斧。72.8×57.25×22.69, 93 g。ホルンフェルス。欠損。(D21-521, 1376)。141 打製石斧。90.09×60.45×26.08, 138 g。ホルンフェルス。欠損。(D23-160)。142 打製石斧。58.34×48.03×24, 88 g。ホルンフェルス。欠損。(D26-29)。143 打製石斧。63.58×40.3×21.63, 63 g。チャート。(D72-551)。P414-3 打製石斧。82.03×41.56×15.64, 65 g。ホルンフェルス。P414は繩文土坑。第42図参照。(29)。144 打製石斧。81.86×40.76×21.03, 89.5 g。ホルンフェルス。(M11北西-南東-下層)。145 打製石斧。69×56×16, 52.9 g。欠損。P386円形土坑出土。第150図参照。(17)。

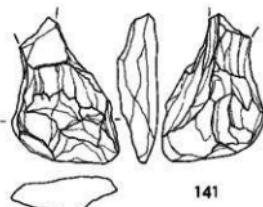
- 146 敵石。126×57×33, 337.1 g。側面に敵打痕が観察される。(M19-1)。P299-12 磨石。一部欠。69×56×41, 189.4 g。窟みあり。側面に敵打痕が観察される。(78)。147 敵石。107×76×38, 455.5 g。表裏側面に敵打痕が観察される。また、黒色の付着物がある。(D43-180)。148 磨石。欠損。64×67×33, 156.3 g。一部に敵打痕が観察される。焼けて赤化。(F9-40 G)。150 敵石。90×66×37, 329.2 g。一面に窟み、反対面に敵打痕が観察される。(D46-19)。151 敵石。欠損。84×71×29, 265.5 g。一面に敵打痕が観察される。(D72-543)。152 敵石。欠損。98×58×27, 227.4 g。不明瞭だが敵打痕と考えられる。(M11東西-125)。153 敵石。72×25×21, 55.8 g。先端に敵打痕がある。(D21-48)。



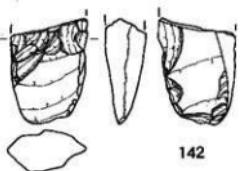
第58図 その他の遺構及び遺構外出土 石器(1)・石製品



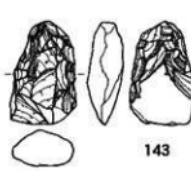
140



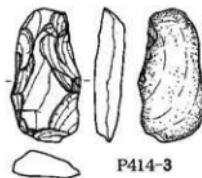
141



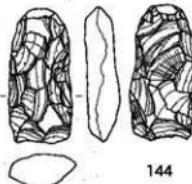
142



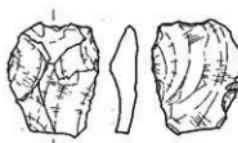
143



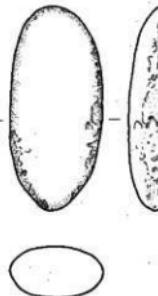
P414-3



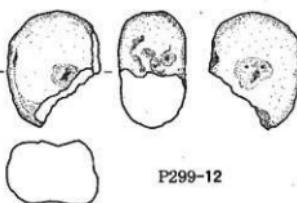
144



145



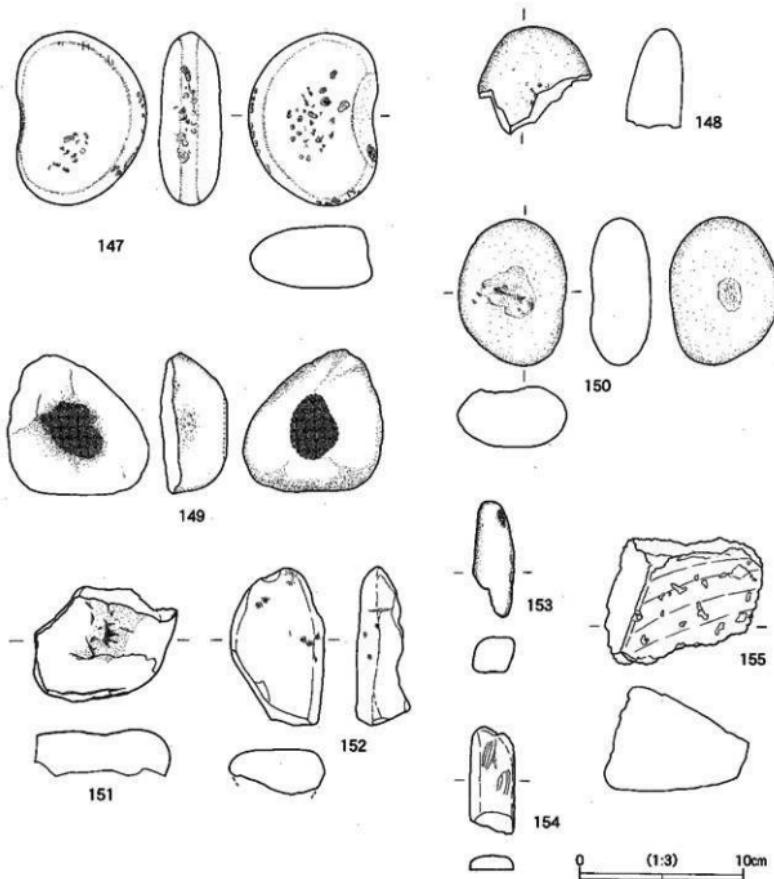
146



P299-12

0 (1:3) 10cm

第 59 図 その他の遺構及び遺構外出土石器 (2)

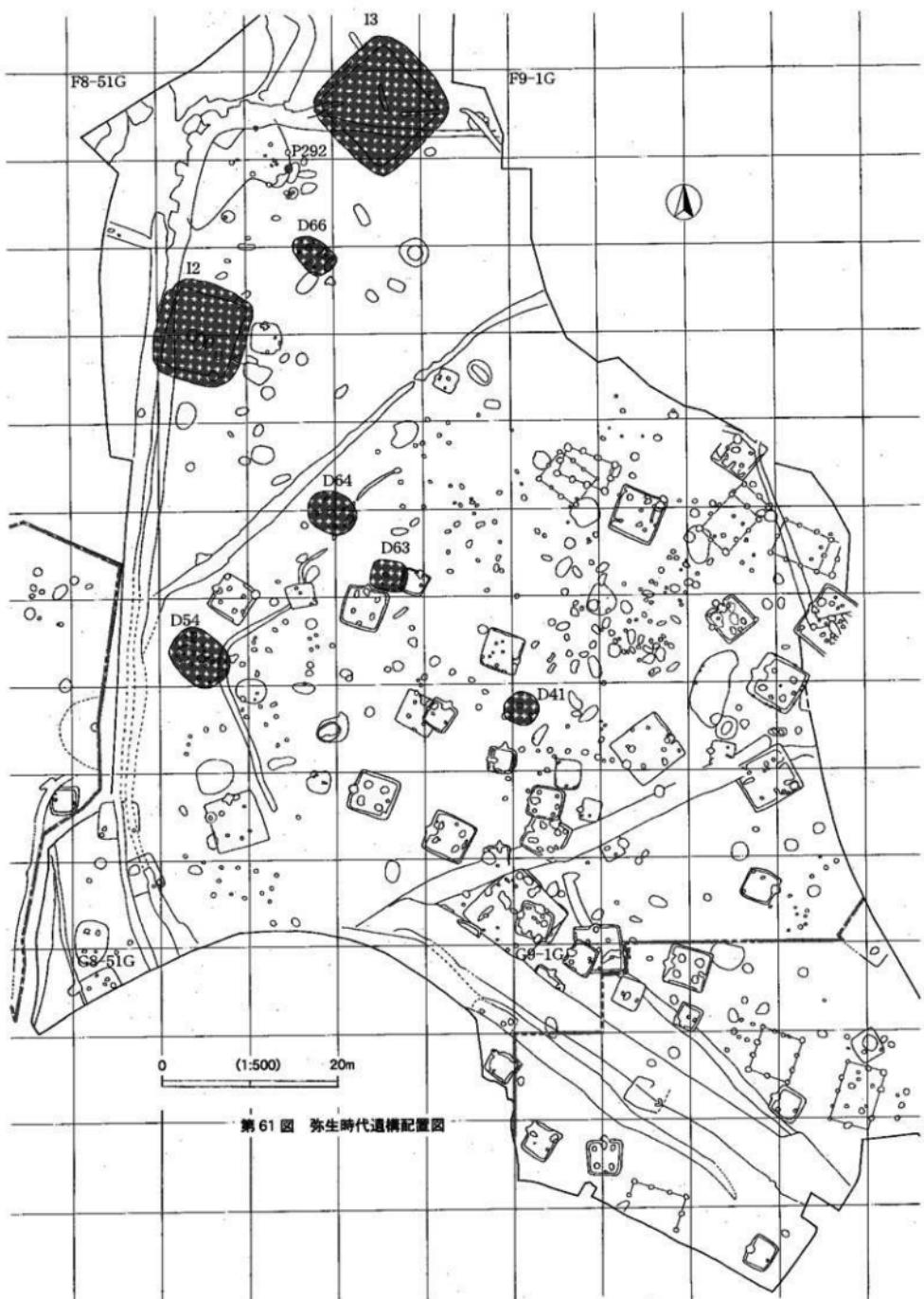


第60図 その他の遺構及び遺構外出土石器（3）

149 焼裸。但し磨ったような痕跡がある。87×84×41, 357.5g。自然面と割れ口に磨ったような痕跡がある。焼けて赤化。(F9-30-1G)。

154 砥石か。61×27×9, 25.5g。一面に磨いたような痕跡がある。(M11東西-176)。

155 石皿。欠損。92×77×64, 478g。(F9-30-1G)。



第 61 図 弥生時代遺構配置図

3 弥生時代

今回の調査で得られた弥生時代の遺構・遺物は、土器から見て後期中頃に属するものと判断される。印旛沼沿岸地域に見られる附加条1種繩文を施した上器群が主体をなしている。住居跡5軒（D41, D54, D63, D64, D66）と方形周溝状遺構2基（I2, I3）、土坑1基（P292）を調査した（第61図）。この他、弥生土器のみを出土したP268上坑や、覆土下層に弥生土器の接合可能な破片が出土したP299土坑などがあったが、弥生時代に属するという確証を得られなかった。

（1）竪穴住居跡

D41住居跡（第62図～63図）

位置 F9-8G～F8-98G。平面形態 円形に近い隅丸方形。規模 北西～南東方向3.77m、北東～南西方向3.64m。深さ48cm。覆土 中央部にしまりのある黒色系の土が厚く堆積。以下は黄褐色・黄橙色系の土。全体に径1mm前後の黄色スコリアを含む。7・10～12以外はしまりがある。1：7.5YR1.7/1（黒色土）。2：7.5YR3/1（黒褐色土）。径1mm焼土粒子少量含む。3：7.5YR4/3（褐色土）。4：7.5YR3/3（暗褐色土）。5：7.5YR5/3（にぶい褐色土）。6：7.5YR5/2（灰褐色土）。7：7.5YR5/8（明褐色土）。しまりやや欠ける。黄スコ多量含む。8：7.5YR5/3（にぶい褐色土）。9：7.5YR4/2（灰褐色土）。10：7.5YR6/6（橙色土）。しまりやや欠ける。黄スコ多量含む。11：7.5YR7/8（黄橙色土）。しまりやや欠ける。径1～5mmの黄スコ・ロームブロック多量含む。12：7.5YR8/8（黄橙色土）。しまりやや欠ける。径1～5mmの黄スコ・ロームブロック多量含む。13：ZHB。壁面 床から丸みをもって立ち上がる。シミが多く不明瞭。床面 平坦な床。暗褐色土や褐色土が斑点状に入り込む。硬化面は、炉跡周辺とP2の周間に分布。移植鏡で削れる程度の硬さ。出入口 P1・P2が入り口施設開闢と推定される。P1は、壁際の溝状の穴。P2は、斜め方向に掘られた穴で、覆土に柱痕のような上が認められた。P2覆土は、1：暗褐色土。黄スコ含む。2：暗黃褐色土。しまりあり。3：黄褐色土。しまりあり。4：褐色土。黄褐色土混じり。しまり弱い。柱痕。5：黄褐色土。しまりあり。炉跡 竪穴部中央のやや北西寄りで検出。覆土は焼土を含む暗褐色土・褐色土。火床が認められた。

遺物 総数143点。うち少なくとも67点は弥生土器。主要な弥生土器は、床面近くの黄橙色土から出土。平面的にはP2の北西40cmのところや炉跡にまとまっていた。他に輕石1点（図版29）、焼成粘土塊が内部から6点出土。

1 売。頸部～胴中部。復元頸部径15cm、復元胴部最大径22.6cm。頸部上半は、無文帯、下半は、S字状結節文帯。胴部は、附加条繩文L R + 2 R。（52, 14, 49, 51, 57, 59～70, 72, 74, 75, 89, 95, 108）。2～6は、複合口縁部小片。2・4・6の口唇上には、繩文が燃糸文が施文されている。2～4（一括）。5（71）、6（93, 99）。7 底部。底径5.9cm、底外面に木業痕。（42, 40, 77）。8 附加条繩文L R + 2 R（39）。9（43）。

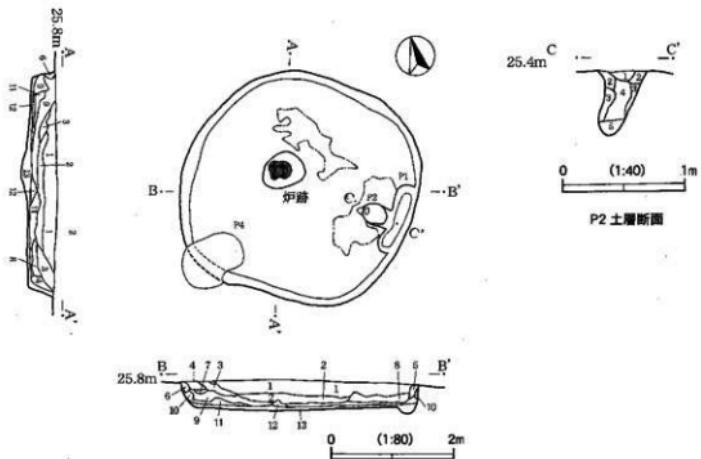
10 土製紡錘車。完形。最大径49mm、最大厚13mm。重さ25.5g。孔径6mm前後。文様無し。（26）。

11 板状の石。91×72×25、241.8g。砂岩。崖みが2箇所ある。類似の石材が弥生時代住居D54・D64から出土している。また同じような崖みをもつ例は、川崎山遺跡d地点3D住居跡にある。

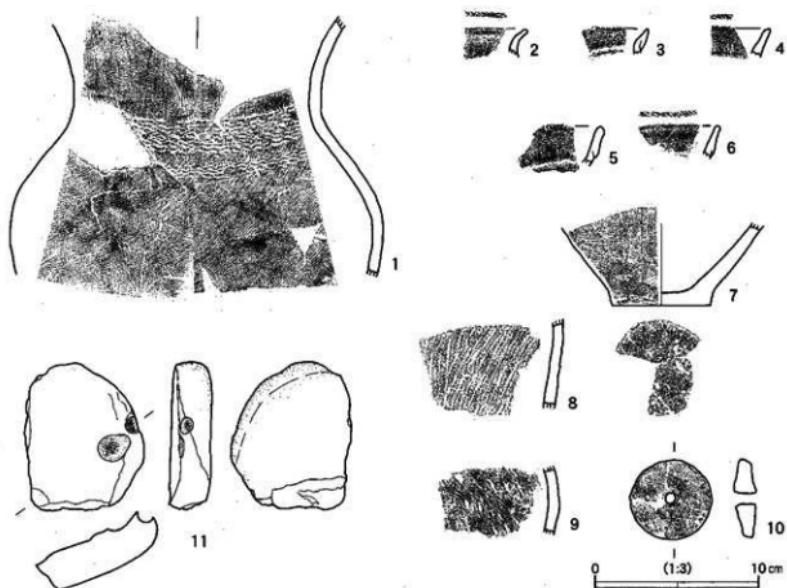
図示しなかったが、焼成粘土塊が出土している。土玉状のものは、最大径12mmの球形、0.9g。（104）。他に扁平なものや不定形など。大きさは10mm前後（図版29）。

D54住居跡（第64図～66図）

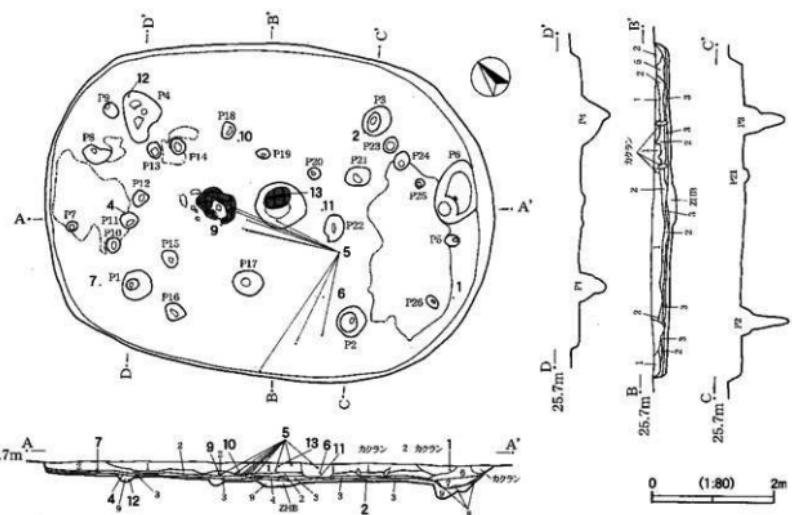
位置 F8-67G。平面形態 北西～南東方向に長い楕円形。規模 北西～南東方向7.3m、北東～南西方向5.5m。深さ20～32cm。覆土 黒色土が比較的厚く堆積。全体的にしまりがある。1：7.5YR1.7/1（黒色土）。2：7.5YR3/3（暗褐色土）。3：7.5YR5/8（明褐色土）。4：7.5YR2/2（黒褐色土）。5：7.5YR2/3（極暗褐色土）。し



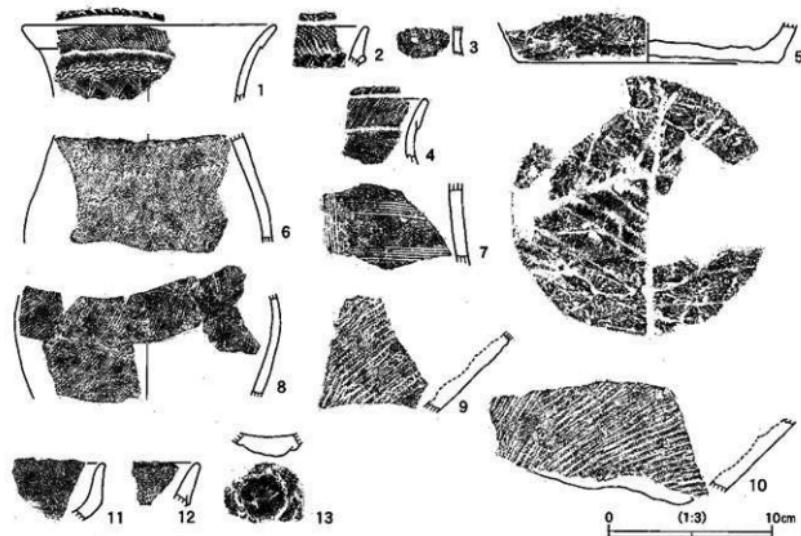
第62図 D41住居跡実測図



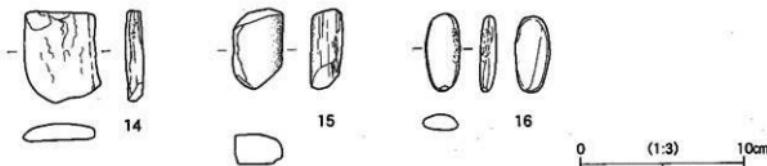
第63図 D41住居跡出土遺物



第64図 D54 住居跡実測図



第65図 D54 住居跡出土遺物 (1)



第66図 D54 住居跡出土遺物（2）

まりやや欠ける。6:7.5YR3/3(暗褐色土)。7:7.5YR2/1(黒色土)。8:7.5YR5/8(明褐色土)。7・8は、P6覆土。壁面やや丸みをもって立ち上がる。床面ほとんどがソフトロームを主体とした柔らかい床で、捉えるのが難しかった。硬化面は、中央部以外に認められた。炉跡2箇所確認した。炉1は、焼土を作う黒褐色土を覆土とし、周囲の床に焼けて赤化した部分があった。炉2は、焼土を作う暗褐色～黒褐色土を覆土とし、底面に火床があった。柱穴主柱穴はP1～P4の4基と考えられる。深さは、P1が44cm、P2が78cm、P3が66cm、P4が46cm。貯蔵穴P6が相当か。深さ12cmの浅い底面と深さ25cmのピット状の底面部分がある。炭化材が1点出土。出入口P5が相当か。深さ12cm。その他のピット上記以外に20基確認した。深いものが多い。

遺物 110点以上出土。うち少なくとも89点は弥生土器。軽石1点。

1 壺。複合口縁部。復元口径15.4cm。赤褐色。口唇上に繩文。複合部は、附加条RL+2L。頸部S字状結節文、4本単位の櫛描波状文。(36)。3 頸部、櫛描波状文。2 壺。複合口縁部。口唇上に繩文、附加条RL+2Lか。複合部は、附加条RL+2L。複合部の下端に刻み。(99)。(一括)。4 壺。複合口縁部。口唇上、及び複合部、不明瞭。附加条LR+2Rか。(77)。(一括)。

5 底部。底径16cm。底外面木葉痕。中腰2本が交差しており、2枚分であろう。外面繩文不明瞭。内面剥離。(60, 61, 44, 53, 67, 90, 91, 98, 45)。

7 復元頸部径13cm。5本単位の櫛描文。(68)。6 復元頸部径11.4cm。復元胴部最大径15cm。頸部は、無文か。胴部は、附加条LR+2R。(42)。8 復元胴部最大径16cm。附加条LR+2R。(4, 5, 6, 一括)。9 外面黒褐色、内面淡橙褐色。径5の長石や橙色・灰色粒子を含む。附加条LR+2R。附加繩が深い。内面剥離。かなり大ぶりの個体であろう。(63)。10 9と同様。(18)。

11～13は、弥生土器よりも新しい時期のものであろう。11 坎口縁部。黒色。ナデ・ミガキ。(94)。12 壺か。複合口縁部。橙色。ナデ。P4内出土。(101)。13 高坏の坏部と脚部の接点か。(22)。

14～16は、D41の11と同様の石で、灰色。砂岩であろう。14・15には、特に加工の痕跡を見出せない。14 55×44×10, 40.7g。板状。(107)。15 49×30×19, 38.6g。(35)。16 46×21×9, 11.4g。敲打痕や磨ったような痕跡が認められる。(43)。

D63住居跡（第67図～69図）

位置 F8-86 G。平面形態 やや北西～南東方向に長い隅丸方形。規模 北西～南東方向4.6m、北東～南西方向3.55m。深さ20cm。覆土 黒色系の土が主体。5以外はしまりがある。1：7.5YR1.7/1（黒色土）。2：7.5YR3/1（黒褐色土）。3：7.5YR4/4（褐色土）。4：7.7YR4/4（褐色土）。5：7.5YR2/3（極暗褐色土）。しまりやや欠ける。壁面 東壁の平面形は湾曲。高さは13cm以下。西壁はわずかな段差のみ残る。床面 ロームを主とする平坦な床面。炉の東側に土間状の硬化面がある。硬化面の北側は暗褐色土が主体。壁溝 南壁の一部に認められた。炉跡 覆土は、黒褐色土・暗褐色土・褐色土で、焼土粒子は極少量。火床は発達していない。貯藏穴・出入口 P4が相当するか。底面に段差あり、最深部は30cm。覆土は、暗褐色土・褐色土。 ピット P1は深さ14cm、P2は深さ10cmと小穴。

遺物 189点以上出土。うち少なくとも179点は弥生土器。

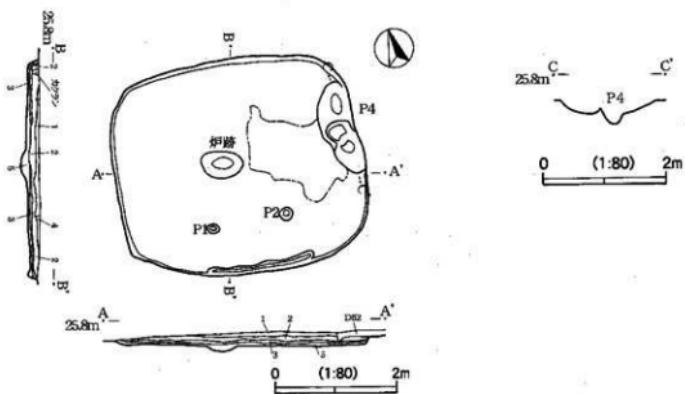
1 壺。口縁部～胴下部。復元口径15cm。復元頸部径12.3cm。復元胴部最大径14.8cm。灰褐色など。雲母など。口唇上繩文。複合部無文。頸部S字結節文。以下附加条LR+2R。(1～3, 5, 6, 9, 21, 133, 165, 178, 184, 一括)。2 複合口縁部。口唇上無節繩文の押圧か。複合部無文。頸部Z字結節文。(一括)。

3 壺頸部～胴上部。復元胴部最大径19.8cm。頸部Z字結節文。以下附加条LR+2R。(154, 162)。4 頸部S字結節文。RL+2L。(80)。5 頸部～胴中部。頸上半無文、下半結節文。以下、附加条LR+2R, RL+2L, LR+2Rと施文され羽状を成している。外面に黒い煤状物質付着。D64の1（第71図）と同一個体であろう。(183, 99, 一括)。6 頸部～胴中部。復元胴部最大径39.6cm。頸部太い結節文。以下、附加条LR+2R。(88～90, 127, 130, 134, 135, 137, 163, 167, 179, 181)。

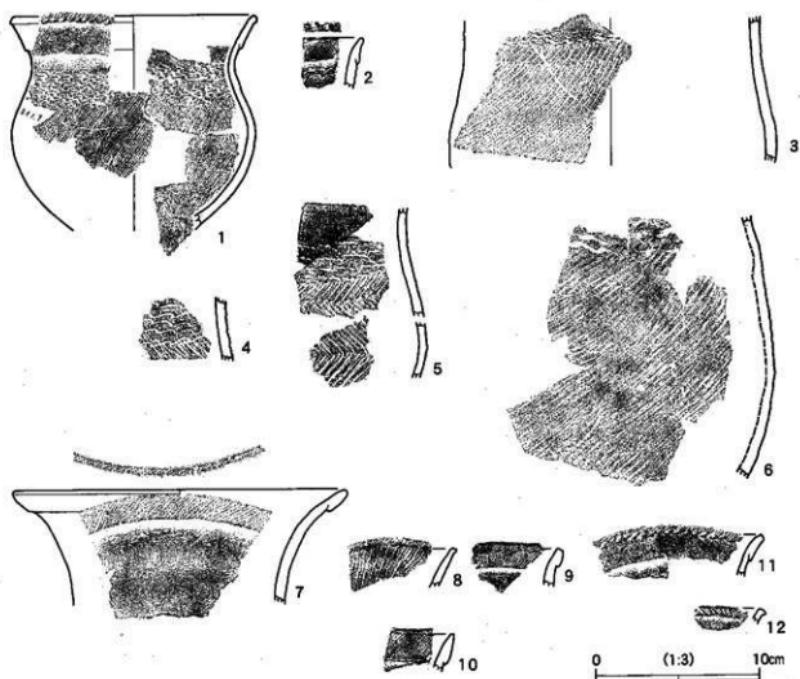
7 壺複合口縁部～頸部。復元口径24cm。口唇上～複合部に附加条LR+2R。頸部無文。外面に黒い煤状物質付着。(64, 63, F8-86 G)。8 口縁部。複合か。口唇上～口縁部に附加条LR+2R。(49)。9 複合口縁部。口唇上～複合部に附加条LR+2R。(一括)。10 複合口縁部。口唇上～複合部に附加条LR+2R。(77)。

11 複合口縁部。復元口径15.4cm。口唇上に附加条LR+2Rか。以下は、無文。(131, 120)。12 小片。口唇上に無節繩文か。(一括)。13 複合口縁部～胴中部。復元口径14.8cm。復元頸部径12.8cm、復元胴部最大径16.5cm。口唇上、内外からの押圧による小波状。頸部無文。胴部附加条LR+2R。(42～44, 66, 71, 79, 81, 82, 100～104)。14 複合口縁部。口唇上、内外からの押圧による小波状。(147)。15 復元頸部径11.2cm。3本単位の櫛描文、波状の後に横方向直線。(168)。16 頸部に6単位の櫛描文による山形文。以下附加条LR+2R。(117)。17 (70)。18 附加条LR+2R。下端の割れ口が磨ってある。(83)。19 球形に近い胴部。復元胴部最大径31.2cm。附加条LR+2R。(24, 26, 87, 98, 132, 136)。20 複合口縁部。ナデ、ミガキ。(158)。21 小片。口縁部。小型椀か。焼成前の穿孔が2つ並ぶ。D64住居跡出土資料と接合。(一括、D64一括)。22 頸部～胴中部。復元頸部径15cm、復元胴部最大径17.5cm。淡褐色、灰色、黒褐色。無文。外面に黒い煤状物質付着。(14, 16, 18, 23, 40, 46, 54, 73, 109, 114, 153, 155)。

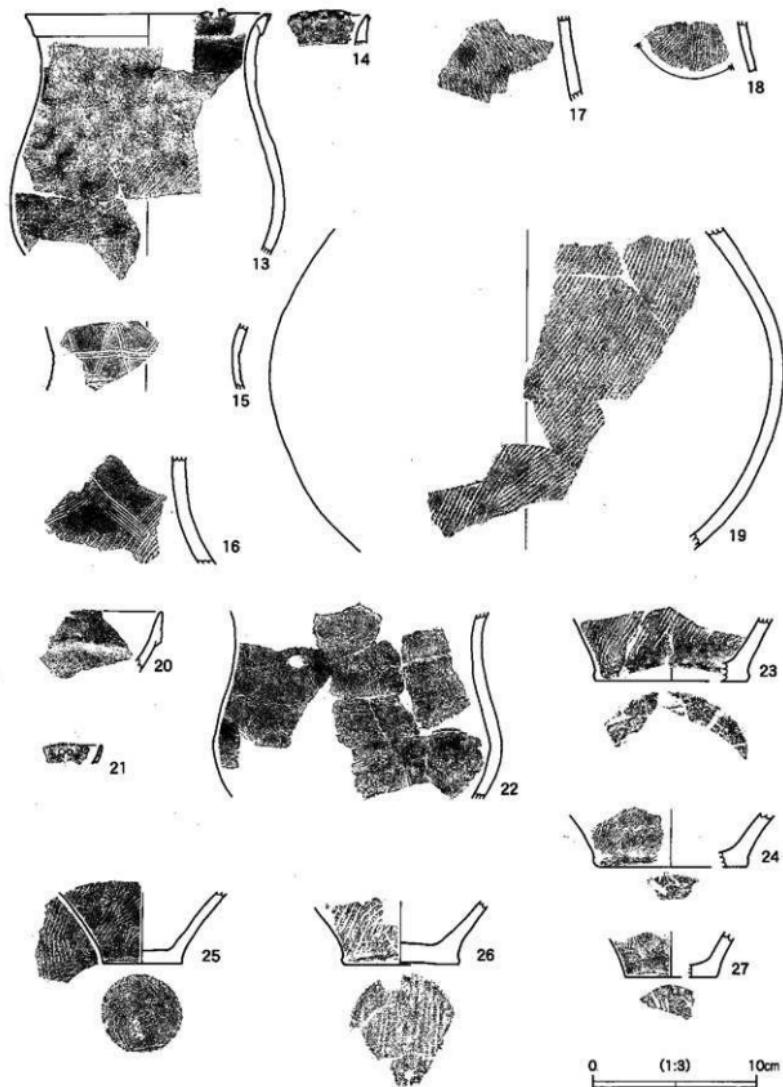
23 底部。復元底径9.2cm。底外面木葉痕。外面附加条LR+2R、下端は横方向ナデ。(8, 11, 96, 97、一括)。24 底部。復元底径9.2cm。底外面木葉痕。外面細かい附加条LR+2R。(22)。25 底部。底径4.8cm。底外面ナデ痕。外面細かい附加条LR+2R。(一括)。26 底部。底径7cm。底外面布痕。外面附加条LR+2R。(27, 119, 124, 126, 128, 149, M17-1)。27 底部。復元底径5.6cm。底外面木葉痕を消したものか。外面附加条LR+2R、下端は横方向ナデ。(176)。



第 57 図 D63 住居跡実測図



第 68 図 D63 住居跡出土遺物 (1)



第69図 D63 住居跡出土遺物（2）

D64住居跡（第70図～72図）

位置 F8-75G～76G～85G～86G。平面形態 北西～南東方向に長い楕円形（いわゆる小判形）。規模 北西～南東方向5.7m、北東～南西4.66m。深さ24cm。覆土 全体的にしまりがある。暗褐色土、黒褐色土が主体を占める。1：7.5YR1.7/1（黒色土）。2：7.5YR3/1（黒褐色土）。3：7.5YR2/1（黒色土）。4：7.5YR3/3（暗褐色土）。5：7.5YR2/3（極暗褐色土）。6：7.5YR5/6（明褐色土）。7：7.5YR6/6（橙色土）。壁面 やや丸味をもって立ち上がる。床面 ほぼ平坦だが、根による搅乱が多く認められる。P5・P6の北西に上間状の硬化面がある。P5～P6の周囲は暗褐色土が主体で、搅乱が多く捉えにくかった。炉跡 中央に1基。覆土は、7.5YR3/2（黒褐色土）主体で焼土量は少ないが、火床が認められた。柱穴 P1～P4が相当。深さは、P1が62cm、P2が71cm、P3が64cm、P4は段差があり、深い方は71cm。出入口 P5とP6の一部が相当か。P5の深さは4cm、P6の一部は45cm。

遺物 51点以上出土。うち少なくとも39点は弥生土器。数は少ないが、比較的大きな破片を得た。D63の遺物と接合する例がある。

1 壺。頸部～胴下部。復元頸部径15.8cm。復元胴部最大径18.4cm。頸部上半は、無文、下半Z字結節文。以下、附加条 L R + 2 R、R L + 2 L、L R + 2 Rと施文され羽状を成している。D63住居出土資料と接合。D63-5（第68図）は、同一個体と考えられる。（1、D63-30）。

2 胴下部～底部。底径12.5cm。底外面木葉痕で、葉縁が見えている。葉縁は、D16の18でも見えている。芻痕のような突起も見える。外面全体にL R + 2 R。（8）。

3 複合口縁部。口唇上～複合部にL R + 2 R。頸部に結節文。（9）。4 複合口縁部。口唇上～内面にL R + 2 R。外面は、無文。（48）。5 複合口縁部の下端に刻み。R L + 2 L（一括）。6 複合口縁部。口唇上に刻み、下端にも刻み。（一括）。

7 脊部下半。L R + 2 R。（7）。8 復元胴部最大径18cm。L R + 2 R。（39、46、一括）。9（20）。

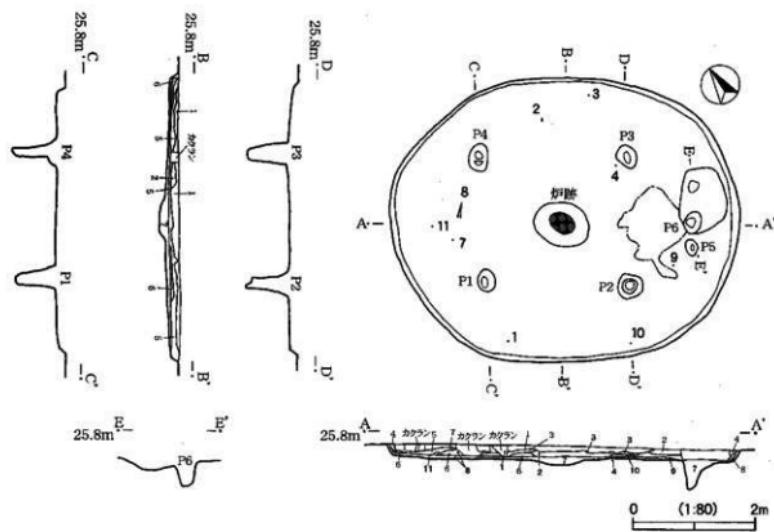
10 板状の石。74×62×12、48.8g。明瞭な加工痕は、認められない。砂岩。D41-11・D54-14～16と同様の石（32）。11 角隠。実測図は、省略（図版29）。65×53×43、226g。灰白色・黄白色・白色。床面に食い込んで出土。（45）。

D66住居跡（第73図～74図）

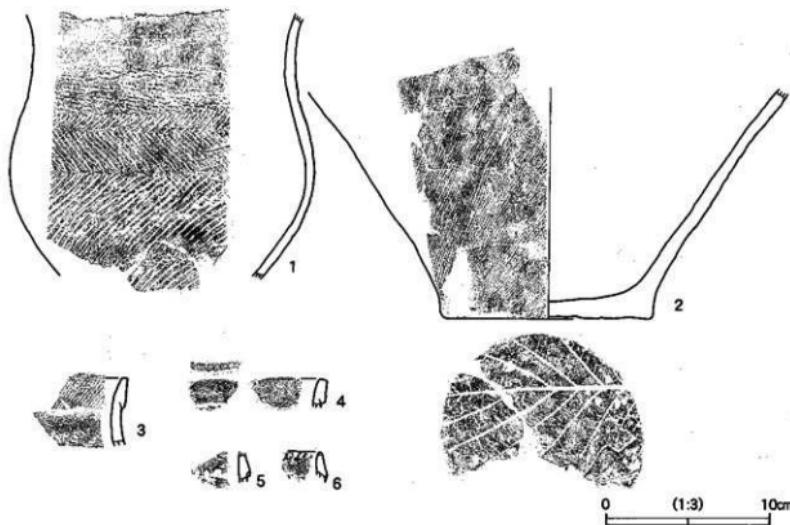
位置 F8-72G～73G～83G。平面形態 北西～南東方向に長い、いびつな隅丸方形。規模 北西～南東方向5.05m、北東～南西方向3.4m。深さ8cm。覆土 上部は削られてしまったため、ごく薄くしか残っていない。全体的にしまりがある。1：7.5YR1.7/1（黒色土）。2：7.5YR4/4（褐色土）。3：7.5YR5/8（明褐色土）。4：7.5YR6/8（橙色土）。5：7.5YR4/2（灰褐色土）。6：7.5YR8/8（黄褐色土）。7：7.5YR4/3（褐色土）。8：7.5YR7/8（黄褐色土）。壁面 高さ5cm程度しか残っていなかった。床面 ほぼ平坦。ソフトロームから成る柔らかい床が大半を占めるが、褐色～暗褐色土のシミが多かった。硬化面は、面的な広がりではなく、ブロック状に住居の南東部分に散在している。炉跡 覆土は暗褐色土主体。焼土量少なく、火床も未発達であった。柱穴 P6が46cm、P7が36cm、P13が32cmと比較的深い。P1・P3・P11・P8・P5が比較的整然とした五角形を成している。深さは、P1が24cm、P3が21cm、P11が26cm、P8が13cm、P5が12cm。貯蔵穴 P10あるいはP15の一部が相当するか。P10は、覆土が暗褐色土と褐色土、深さ13cm。P15は、覆土が暗褐色土と褐色土が混じり合い、最深部が26cmで、凹凸がある。出入口 P15の一部が相当か。その他のピット P2・P4が深さ5cmの座み、P9は深さ16cm、P14は深さ16cmで凹凸がある。

遺物 53点以上出土。うち少なくとも46点は弥生土器。覆土の厚さが10cmにも満たなかつたが、略完形の鉢などが得られた。

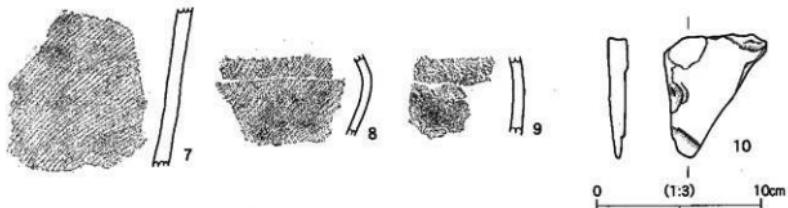
1 複合口縁の浅鉢。略完形。高さ：8.1cm、口径17.4cm、底径6.3cm。黒灰色、淡褐色。細砂。口唇上～胴下部までL R + 2 Rが施文される。底部付近は、ナデで消されている。底外面木葉痕。内面ナデ・ミガキ。（1、39、40、43、46、47、50、52、53）。



第70図 D64住居跡実測図



第71図 D64住居跡出土遺物(1)



第72図 D64住居跡出土遺物(2)

2 頸部～胴上部。復元頸部径9cm。復元胴部最大径13.4cm。頸部は、無文・結節文・無文・結節文。以下L R + 2 R。(20, 24, 42, 48)。

3 複合口縁部。複合部下端に擬似交互刺突文。以下に縱方向の櫛描文。(22)。5 縱方向の櫛描文と櫛描波状文、結節文。(4)。6 5と同じ文様構成。(5)。7 櫛描波状文と結節文。(23)。3・5～7は、同一個体と考えられる。

4 5本単位の櫛描文による山形文。以下L R + 2 R。(一括)。8 壺か。頸部。復元頸部径9cm。淡褐色。縱方向と斜方向の細い沈線を組み合わせた文様が見える。以下には、LR絶文が2段。内面に輪積痕が残る。(一括)。

(2) 方形周溝状遺構・土坑(第61図)

I 2方形周溝状遺構(第75図～76図)

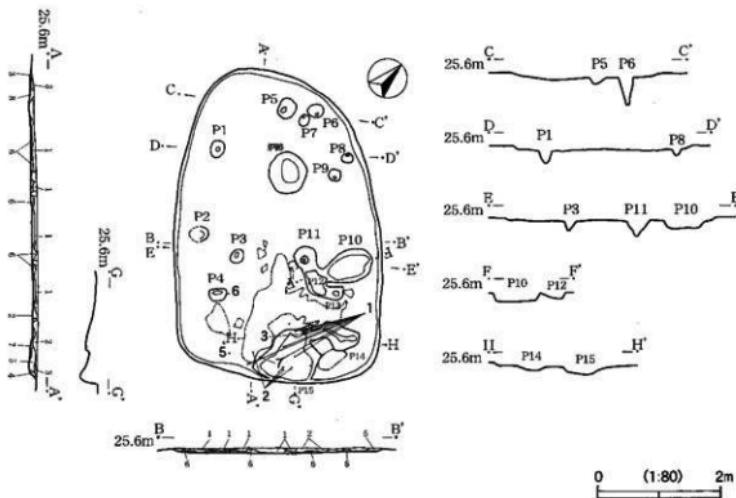
位置 F8-63G～64Gなど。M19溝・M20溝・P249に切られる。P250・P343を切る。平面形態 北東～南西方向に長い、方形。規模 北西～南東方向外径10.2m、内径8.0m、北東～南西方向外径11.4m、内径8.7m。溝の幅は最大1.5m、最小0.6m。コーナーが狭くなる傾向が認められる。深さ24～44cm。覆土 全体的にしまりがあり、径1～3mmの黄色スコリアを含む土が主体。1：7.5YR2/2(黒褐色土)。2：7.5YR2/1(黒色土)。3：7.5YR5/4(にぶい褐色土)。黄スコロや多い。4：7.5YR4/3(褐色土)。5：7.5YR6/6(橙色土)。黄スコ最多。6：7.5YR2/2(黒褐色土)。黄スコロや多い。7：7.5YR4/4(褐色土)。8：7.5YR7/6(橙色土)。ロームブロック。9：7.5YR5/6(明褐色土)。しまりにやや欠ける。黄スコ・ロームブロックやや多い。10：7.5YR1.7/1(黒色土)。11：7.5YR4/4(褐色土)。12：7.5YR5/6(明褐色土)。黄スコロや多い。13：7.5YR2/1(黒色土)。14：7.5YR3/1(黒褐色土)。

遺物 59点以上出土。うち少なくとも42点は縄文土器で、弥生土器5点、他に黒曜石製石鎌や同剥片など。遺構の時期を示す遺物は弥生土器であろう。

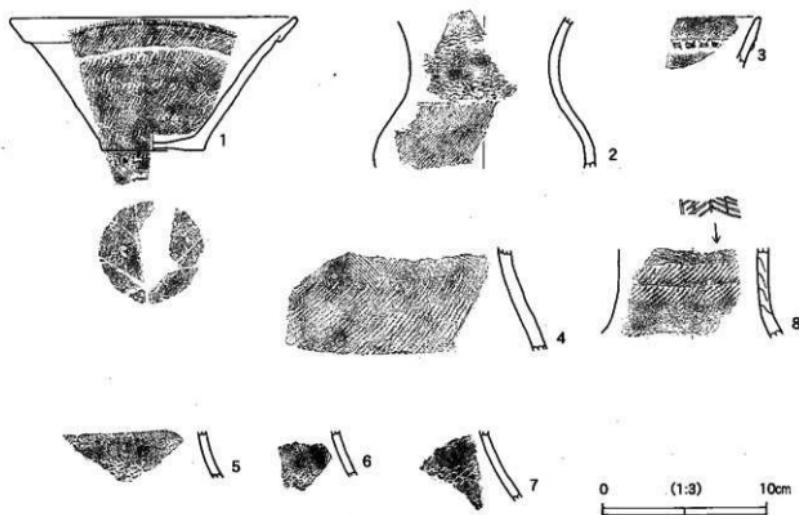
1 壺頸部。縦方向の5本単位櫛描文。(2)。2 壺胴下部。底付近の復元径9cm。外面ハケ目状の擦痕。内面ナデ・ミガキ。(7, 10, 13, 50)。3 口縁部。復元口径16cm。橙色など。細砂・細礫。口唇に突起、おそらく2個一对になる突起ではないか。下部に沈線が見える。(31)。

I 3方形周溝状遺構(第77図～79図)

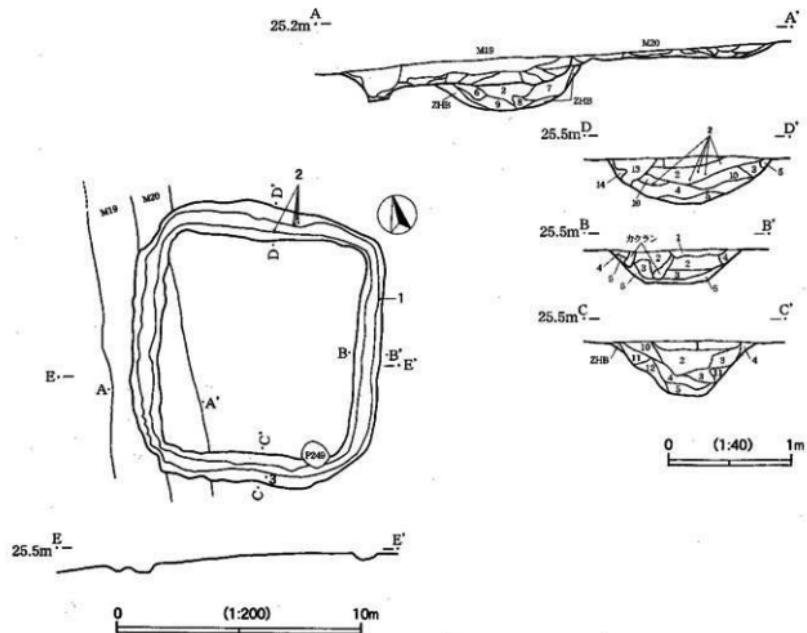
位置 F8-81G～E8-90Gなど。M20溝・M24溝に切られる。P344を切る。平面形態 わずかに北東～南西方向に長い、方形。規模 北西～南東方向外径12.5m、内径10.3m、北東～南西方向外径13.0m、内径9.8m。溝の幅は最大1.9m、最小0.65m。コーナーが狭くなる傾向が認められる。深さ32～68cm。覆土 全体的にしまりがあり、径1～5mmの黄色スコリアを含む土が主体。1：7.5YR3/2(黒褐色土)。2：7.5YR5/8(明褐色土)。3：



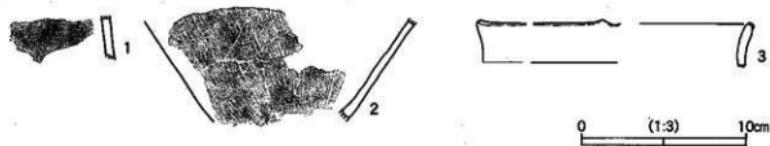
第73図 D66住居跡実測図



第74図 D66住居跡出土遺物



第75図 I2方形周溝状遺構実測図



第76図 I2方形周溝状遺構出土遺物

7.5YR2/1 (黒色土)。4 : 7.5YR3/4 (暗褐色土)。5 : 7.5YR4/4 (褐色土)。しまりにやや欠ける。黄スコやや多い。6 : 7.5YR6/8 (橙色土)。しまりにやや欠ける。径15~28mmロームブロックやや多い。7 : 7.5YR3/1 (黒褐色土)。8 : 7.5YR4/6 (褐色土)。9 : 7.5YR5/8 (明褐色土)。黄スコやや多い。10 : 7.5YR3/3 (暗褐色土)。11 : 7.5YR6/6 (橙色土)。径8~65mmロームブロック含む。12 : ロームブロック。13 : 7.5YR4/2 (灰褐色土)。14 : 7.5YR5/8 (明褐色土)。径7~15mmロームブロックやや多い。15 : 7.5YR6/8 (橙色土)。径8~18mmロームブロックやや多い。16 : 7.5YR5/4 (にぶい褐色土)。黄スコやや多い。17 : 7.5YR1.7/1 (黒色土)。18 : 7.5YR3/1 (黒褐色土)。黄スコやや多い。19 : 7.5YR3/4 (暗褐色土)。黄スコやや多い。20 : 7.5YR5/8 (明褐色土)。黄スコ・径25以下ロームブロックやや多い。21 : 7.5YR4/3 (褐色土)。径18~28mmロームブロック含む。22 : 7.5YR4/6 (褐色土)。23 : 7.5YR5/8 (明褐色土)。24 : 7.5YR6/8 (橙色土)。径45mm以ドロームブロック多量含む。ピット 溝内にピット状の窪みがあった。ピット覆土は、1 : 7.5YR4/3, 4/4 (褐色土)。径10mmロームブロックを少量含む。2 : 7.5YR4/4 (褐色土) 3 : 7.5YR3/3 (暗褐色土)。しまりにやや欠ける。径10~20mmロームブロック含む。4 : 7.5YR4/3 (褐色土)。

遺物 180点以上出土。うち少なくとも124点は縄文土器で、弥生土器6点、土師器1点、他に阿玉台式土器を再利用した土器片錐6点、黒曜石剥片や焼砾など。

- 1 壺底部。底径6.7cm。底外面木葉痕。外面粗いハケ目。(80)。2 頸部。平行沈線による縱横の文様。(177)。3 S字結節文、附加条L R + 2 Rを横位に回転。Rの圧痕しか見えない。(159)。4 附加条R L + 2 L。(99)。
P292土坑(第80図)

位置 F8-72 G。縄文土坑P294を切り、K1古墳よりは古い。径 82×68cm。深さ 28cm。覆土 径1~5mmの黄色スコアリを含む。4以外は、しまりがある。1 : 7.5YR5/3 (にぶい褐色土)。2 : 7.5YR2/3 (極暗褐色土)。3 : 7.5YR3/1 (黒褐色土)。黄スコ多量。4 : 7.5YR4/4 (褐色土)。黄スコやや多。5 : ZHB。遺物 弥生土器細片4点。本遺構に切られるP294の覆土上層から鉢が出土(第82図P294-2)。

(3) その他の弥生土器

K1古墳出土弥生土器(第81図)

K1古墳の範囲内からは、弥生土器が多く出土した。特にF8-71 G杭から北東~東へ1~2.5mの付近に集中していた。この付近は、縄文土器も集中していた地点である。

- 1 壺複合口縁部~頸部。口唇刻み、複合部に附加条L R + 2 R、頸部無文。(M1)。2 1と同一個体。(一括)。3 壺複合口縁部。口唇刻み、複合部に附加条L R + 2 R。M1内。(245)。4 壺複合口縁部。口唇刻み、複合部に附加条L R + 2 R。(338, 399)。5 壺複合口縁部。口唇上~複合部に附加条L R + 2 R。頸部S字結節文。(336)。6 壺複合口縁部~頸部。口唇~複合部に附加条R L + 2 L。複合部下端擬似交互刺突文。頸部櫛横波状文。(一括)。7 壺複合口縁部。復元口徑9cm。(M1)。16 7と同じような原体。(228, 241, 一括)。

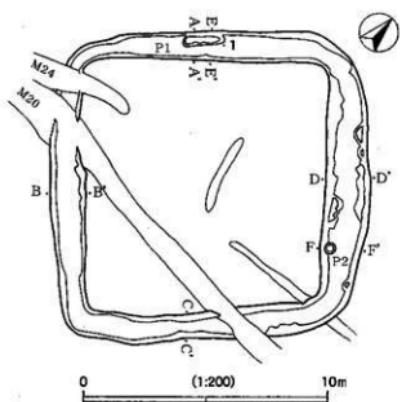
8 壺頸部~胴上部。交互に無文部とS字結節文、L R + 2 R。M1内。(249)。9 壺頸部。8と同様。(406, 407)。11 壺胴上部。復元頸部径18cm。復元胴部最大径18.4cm。8・9と同様の文様。(346, 一括)。10 壺頸部。S字結節文、無文部は、ハケ目状の擦痕。(M1)。14 10と同一個体。(M1)。

12 壺胴上部。L R + 2 R。(340)。13 L R + 2 R。(293)。15 底部付近。R L + 2 L。(316)。

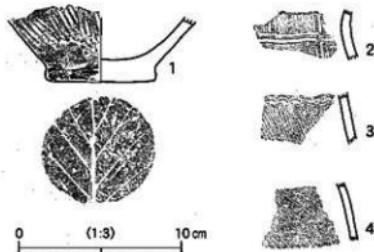
その他の遺構及び遺構外出土弥生土器

1 壺。複合口縁部~胴上部。復元口徑17.2cm。口唇上部に化粧土と刻みか。複合部下端刻み。頸部横方向ハケ目状擦痕。L R + 2 R。(D47-36, 39)。2 底部。復元底径7.4cm。底外面木葉痕。外面横方向ナデ。(D47-41)。

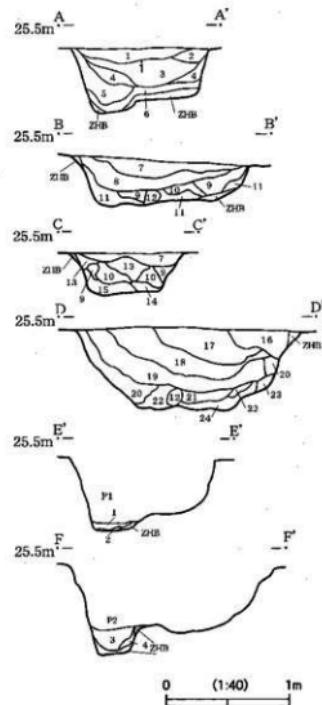
3 壺。複合口縁部~頸部。頸部が黒色、他は、褐色。L R + 2 R。(D49-68)。



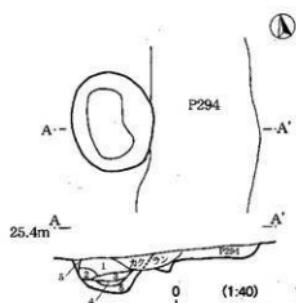
第77図 I3方形周溝状遺構実測図(1)



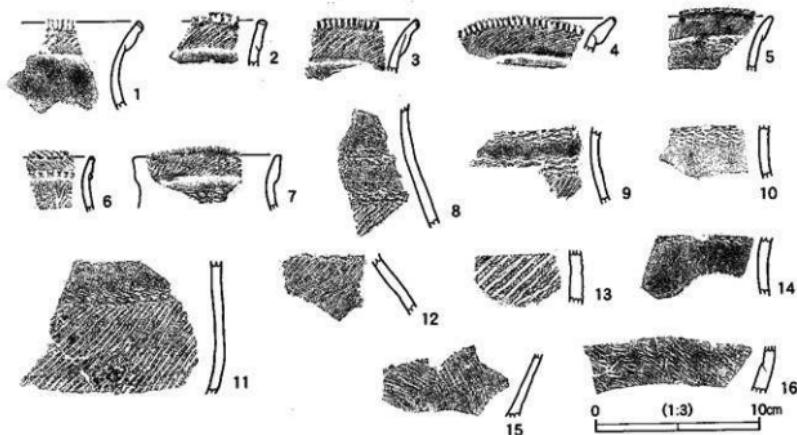
第79図 I3方形周溝状遺構出土遺物



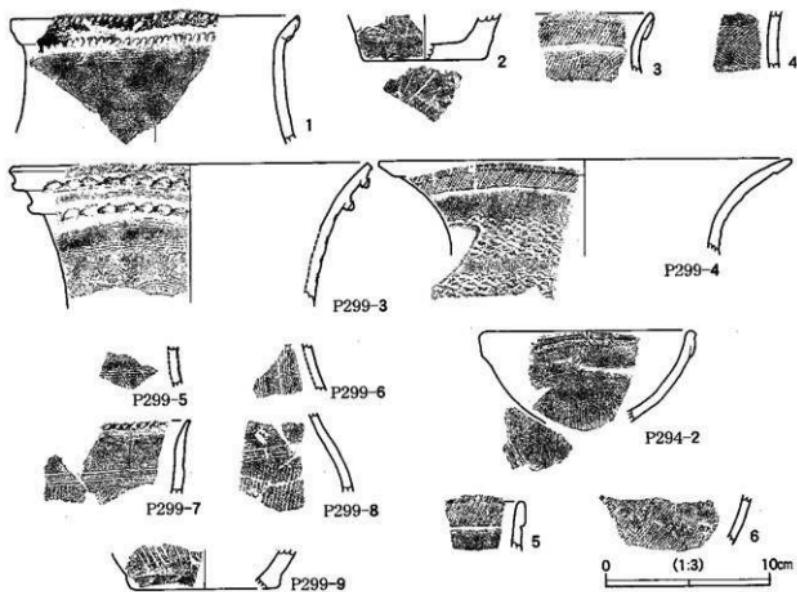
第78図 I3方形周溝状遺構実測図(2)



第80図 P292土坑実測図



第81図 K1古墳出土弥生土器



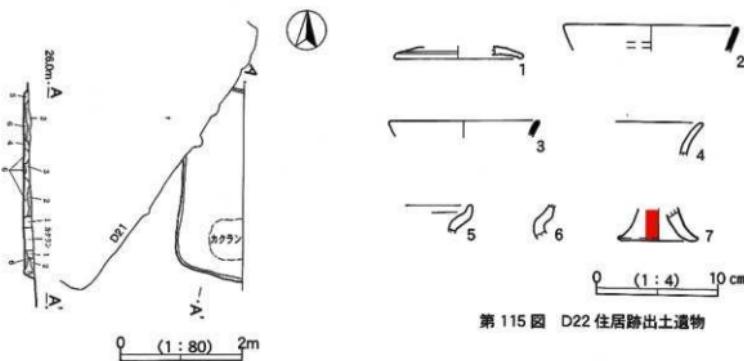
第82図 その他の遺構及び遺構外出土弥生土器

4 瓢。頭部。細かいLR+2RとRL+2Lで羽状を成す。(M17)。

次の7点は、P299土坑出土(遺物)は第239図による)。P299-3・5・6は、同一個体であろう。瓢。復元口径21.4cm。淡褐色。雲母・長石を含む。口唇に縄文、押捺のある隆帯2条。頭部に3本単位の構造による廉状文、連弧文が描かれる。P299-3(66, 76, 86, 105など)。P299-5(一括)。P299-6(54)。P299-4複合口縁瓢。復元口径25cm。口唇～複合部にLR+2R。頭部にS字結節文と無文部。(45, 23, 27, 75, 108, 115, 135, 一括)。P299-7 口唇刻み。平行沈線、LR+2R。(34, 一括)。P299-8 7と同一個体であろう。(16)。P299-9 底部。復元底径8.6cm。外面RL+2L。(38)。

P294-2鉢。復元口径12.8cm。黒色、黒褐色、暗褐色。赤褐色粒子など含む。複合口縁。口唇上に縄文。以下、横方向ナデ、縱方向ミガキとハケ目状擦痕。(2, 3, 6)。

5 口唇上～複合部にLR+2R。(F8-83-3G)。6 腋下部。LR+2R。(F8-86-2G)。



第 114 図 D22 住居跡実測図

1 土師器壺。残存高4.5cm。復元口径13.8。(63, 93)。2 土師器壺。口径17.5cm。厚手。口縁内外横方向ナデ。外面頸部のヘラ削りが部分的にハケ目のように見える。(1, 52, 60)。3 壺か。復元口径13.8cm。(70)。

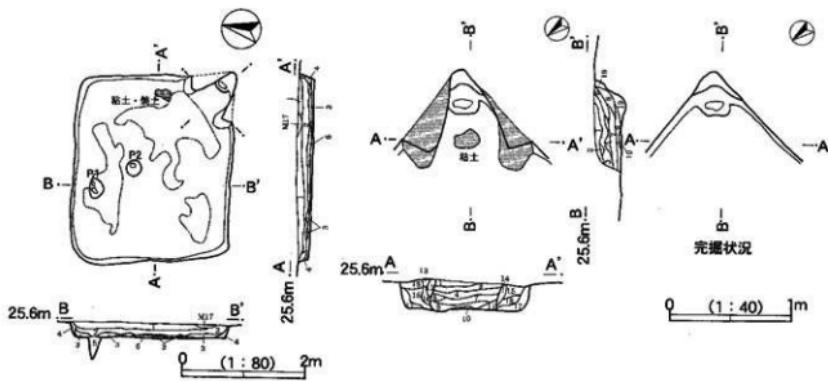
4～6は、白玉完形品。すべてP5内出土。4 最大径5.5mm×最大厚3.3, 0.2g。(99)。5 5.2×3.3, 0.2g。(一括)。6 5.3×3.8, 0.2g。(一括)。

D22住居跡（第114図～115図）

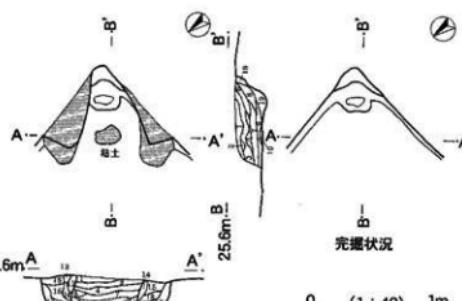
位置 F9-38G。平面形態 方形。大半は区域外。D21住居跡に切られる。規模 南北方向3.06m, 東西方向残存1.0m。深さ15cm。覆土 全体的に、径1～5mm黄色スコリアを含む。1 : 7.5YR1.7/1 (黒色土)。しまり欠ける。2 : 7.5YR3/1 (黒褐色土)。しまりあり。3 : 10YR4/1 (褐灰色土)。しまり欠ける。ロームブロック多量含む。4 : 7.5YR4/6 (褐色土)。しまりあり。5 : 7.5YR3/4 (暗褐色土)。しまりあり。黄スコ多く含む。6 : 10YR6/8(明黄褐色土)。しまりあり。黄スコを多く含む。壁面 丸みをもって立ち上がる。床面 平坦。ロームから成り、明瞭な貼り床は認められない。

遺物 総数201点出土。繩文土器11点、弥生土器2点、土師器152点、須恵器29点、礪7点など。いずれも小片。

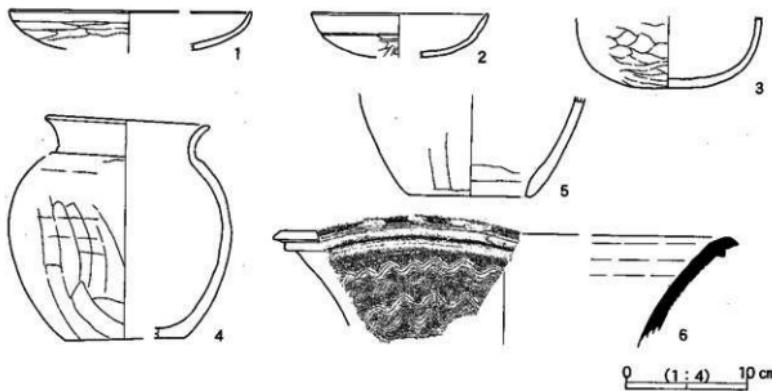
1 土師器壺。復元口径10.6cm。(8)。7 土師器高壺の脚部。復元底径6.6cm。(一括)。4～6は、土師器壺。いずれも一括。4 武藏型。5 復元口径27.6cm。口唇つまみ出し直立。6 口唇つまみ出し外反。2・3は、須恵器壺、ロクロ成形、ともに一括。2 復元口径14.3cm。3 復元口径12.4cm。雲母含む。



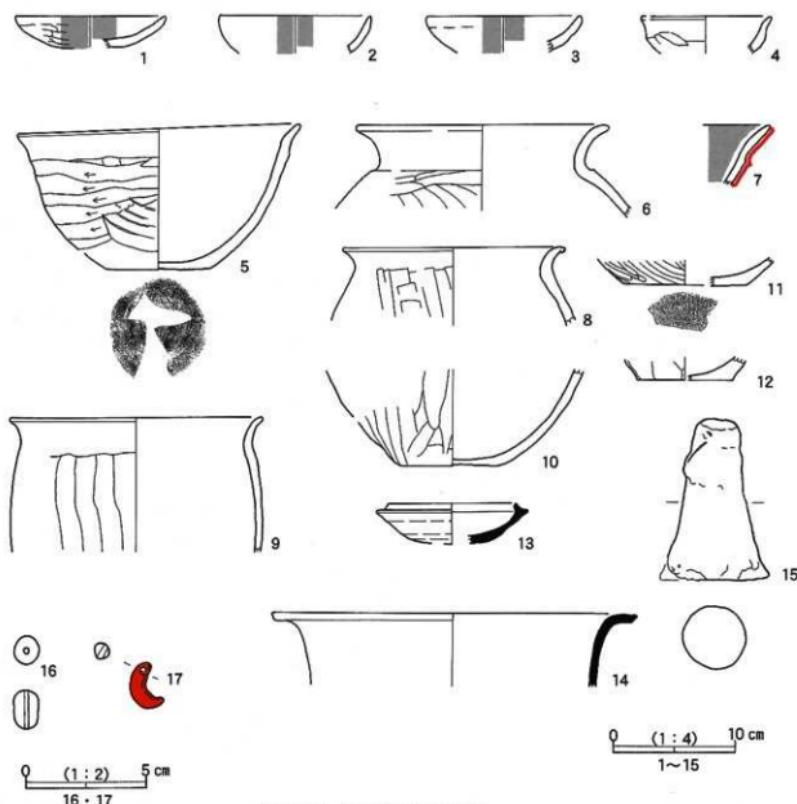
第 126 図 D47 住居跡実測図



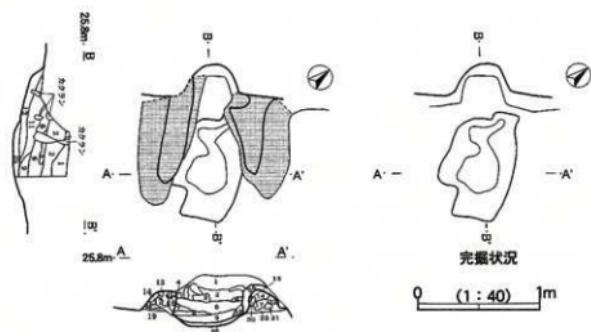
第 127 図 D47 住居跡力マド実測図



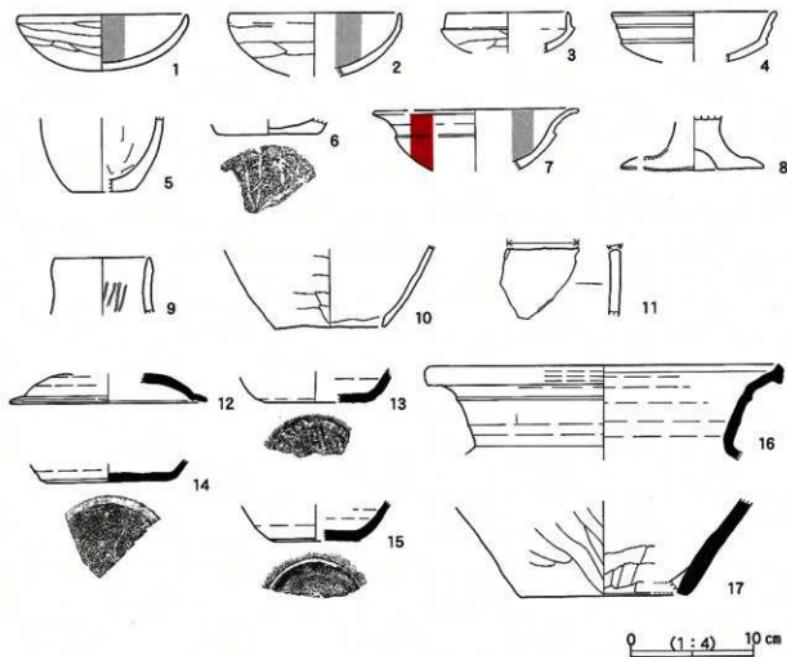
第 128 図 D47 住居跡出土遺物



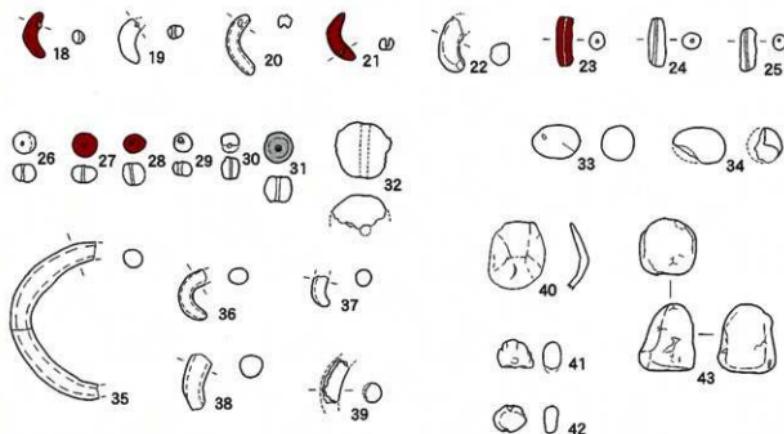
第 138 図 D55 住居跡出土遺物



第146図 D72住居跡カマド実測図

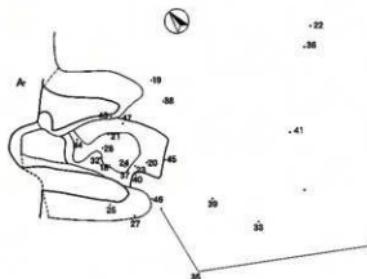


第147図 D72住居跡出土遺物(1)

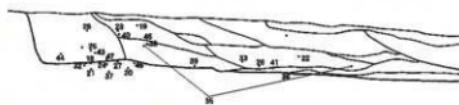


第148図 D72 住居跡出土遺物 (2)

0 (1 : 20) 2cm



26.2m. A



0 (1 : 40) 1m

第149図 D72 住居跡 カマド周辺土製品出土状況

26~32は、土工。26 完形。7mm×9.5×9。褐色、灰褐色。緻密。貫通孔。(480)。27 完形。7.5mm×10。橙褐色、赤彩。緻密。貫通孔。カマド外、左袖下部出土。(718)。28 完形。9.5mm×9.5×7.5。橙褐色、赤彩か。細砂。貫通孔。カマド内出土。(740)。29 略完形。6mm×8。橙褐色、灰白色。緻密。貫通孔。(カマド内一括)。30 半欠。9mm×7.5×残存5。淡褐色。細砂。貫通孔。(一括)。31 略完形。10.5mm×12。黒色。緻密。貫通孔。(一括)。32 半欠。残存23mm×残存14。橙色。細砂。貫通孔。粗雑な作り。カマド内出土。(739)。

33・34は、球状土製品で、貫通孔無し。33 完形。19mm×14。黒褐色～褐色。細砂。(476)。34 半欠。22mm×残存14.5×残存11。淡褐色。細砂。(一括)。

35~39は、棒状土製品。35 環状。両端欠損。残存65mm×7~9.7。灰褐色。緻密。(474, 478)。36 一端欠損。残存21mm×6.5~8。灰褐色。緻密。(623)。37 一端欠損。残存13mm×6.5。橙褐色。緻密。勾玉の可能性あり。カマド内出土。(737)。38 両端欠損。残存23mm×8.5~9。灰褐色。緻密。カマドの前面出土。(169)。39 欠損。残存18.5mm×7。灰褐色。緻密。(477)。

40 不明土製品。欠損。28mm×22×厚さ2~3。橙褐色、赤彩か。細砂。カマド前面出土。(479)。

43 土錘か。完形。28mm×22×23。橙色。緻密。カマド内出土。親指の先のような形の土製品。内部に石か何かが入っており、当初は、振ると小さな金属音がした。整理工程で内部の石(?)が動かなくなり音が鳴らなくなってしまった。(748)。

41・42・44~47は、焼成粘土塊。41 半欠。14mm×残存11.5×厚さ8。にぶい褐色。緻密。(475)。42 完形か。13×11×5.5。橙褐色。(カマド内一括)。44~47は、実測図省略。44 63mm×46×厚さ24。カマド内出土。(749)。45 40mm×31×厚さ8。カマド前面出土。(151)。46 カマド前面出土。(629)。47 44mm×30×厚さ14.5。カマド内出土。(720)。粘土塊は、他に少なくとも62点出土している。

(4) 円形土坑

本遺跡からは、平面が直径15m前後の円形で、深さ80~90cmほどの十坑が検出され、古墳時代の土師器の完形品などを出土し注目された。この種の円形土坑は、概ね古墳時代を中心とするものと考え、小型のもの・浅いものも含めここで報告する(第83図)。但し後代のものも含まれる可能性はある。

(第150図)

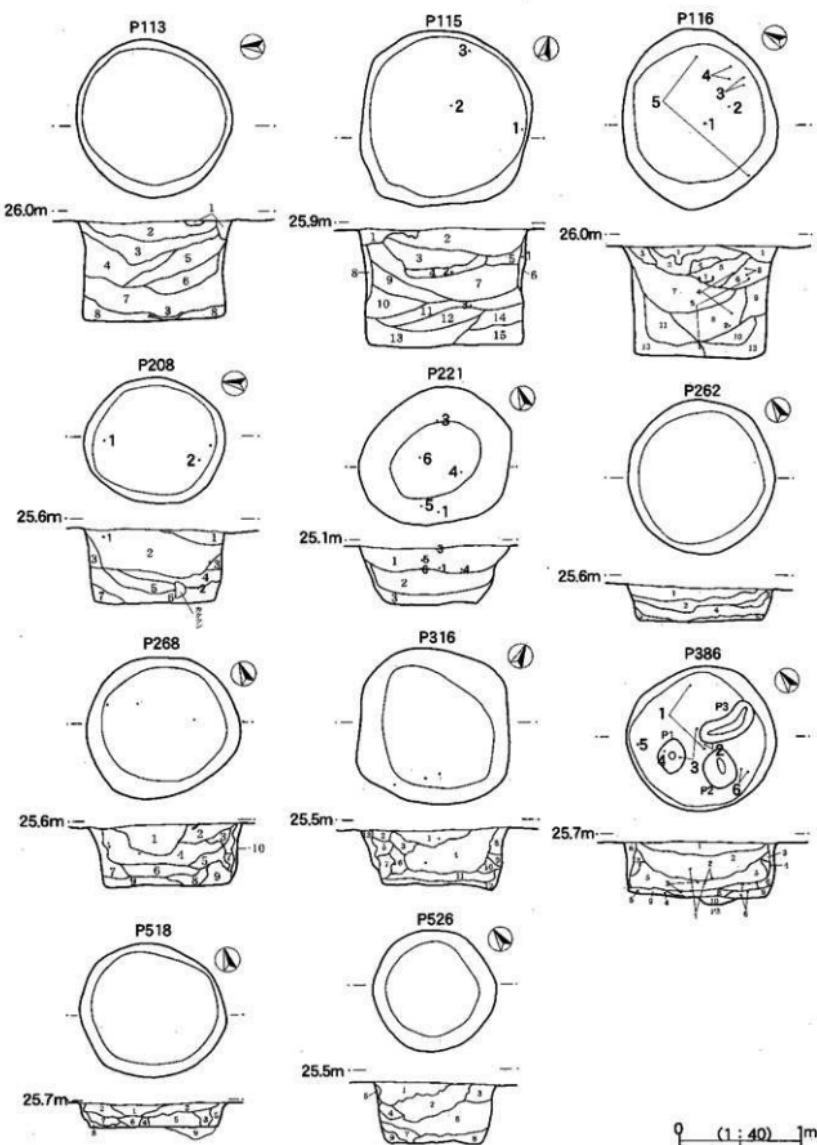
P113土坑 位置 F9-39G。覆土 しまりあり。黄色スコリア含む。1:にぶい黄褐色土。2:黒褐色土。3:黒褐色土。2より純い。4:黒色土。5:黒褐色土。黄スコ多。6:黒色土。7:にぶい黄褐色土。8:黒褐色土。規模(cm) 126×130、深さ82。遺物(第153図) 総数23点。内訳土師器22点、須恵器1点。1 土師器の壊か鉢。復元径16cm。赤彩あり。(一括)。2 土師器の壺。復元胴部最大径20.4cm。内面ヘラナデ。外面ナデ、横方向ミガキ。(11)。3 須恵器の壺の脇部破片。細砂、黒色粒子。外面叩き目、擦った痕跡があり、砥石として利用されたらしい。土坑の底面から出土。(1~9)。

P115土坑 位置 F9-39G。覆土 径1~2mm黄色スコリア含む。1~6~8以外は、しまりあり。1:灰黄褐色土。2:黒色土。3:黒褐色土。4:黒色土。5:黒褐色土。6:にぶい黄褐色土。7:黒色土。8:黒褐色土。9:黒色土。10:黒色土。9より暗い。11:にぶい黄褐色土。径1~5mm黄スコ多量。12:暗褐色土。13:黒褐色土。径1~10mm黄スコ多量。14:黒褐色土。15:にぶい黄褐色土。規模(cm) 径153、深さ96。遺物(第153図) 総数56点。うち土師器52点。縄文中期土器2点など。1~3 土師器壺。1 復元口径14.8cm。黒褐色、赤褐色など。赤褐色粒子など。ナデ、ヘラ削り後ナデ。(5, 一括)。2 残存高5cm、復元口径11.8、丸底。橙色。後あり。(7, 一括)。3 完形。高さ5.8cm、口径12.3、丸底。赤彩。ナデ、ミガキ。(8)。

P116土坑 位置 F9-40G。覆土 径1mm以上の黄色スコリアを多く含む。3以外は、しまりあり。1:黒色土。2:黒褐色土。3:極暗褐色土。しまりにやや欠ける。4:灰黄褐色土。黄スコ多量。5:黒褐色土。6:黒色土。7:褐色土。8:黒色土。黄スコ多量。9:黒色土。8より暗い。10:褐色土。黄スコ多量。11:暗褐色土。12:黒色土。13:黒色土。12より明るい。規模(cm) 149×127、深さ93。遺物(第153図) 総数85点。うち土師器75点。縄文中期土器7点など。土師器5点図示。1 壺。完形。高さ5.7cm、口径12.9、丸底。赤彩。(27)。2 鉢。高さ6.2~7.3cm、口径12.1、底径5.4。赤彩。繊維など。(45)。3 高壺の脚部。復元底径15.5cm。外面赤彩。(23, 26)。4 壺。復元口径15cm。内外に粗いハケ目。(46, 25)。5 復元口径12.4cm。内外にハケ目。(5, 44)。

P208土坑 位置 F8-88G。覆土 しまりにやや欠ける。1:黒褐色土。2:黒褐色土。径1~5mmの黄色スコリアを含む。3:暗褐色土。褐色土混じり。4:黒褐色土。1~3よりもしまりあり。径1mm黄スコ含む。5:黒褐色土。径1~5mm黄スコ含む。6:黒褐色土。径1~2mm黄スコ含む。7:暗褐色土。褐色土混じり。規模(cm) 116×104、深さ60。遺物(第152図) 土師器3点。うち2点図示。1 壺。復元口径12.6cm。赤彩。(3)。2 壺。復元底径9cm。赤褐色粒子など。ヘラ削りなど。(1)。

P221土坑 位置 F8-59G~60G。覆土 1:暗褐色土。しまりにやや欠ける。径1~2mmの黄色スコリアを含む。2:にぶい黄褐色土。しまりあり。黄スコ・ロームブロック多く含む。3:明黄褐色土。黄スコ・ロームブロックを2より多く含む。規模(cm) 129×112、深さ47。遺物(第152図) 総数50点。うち土師器壺25点・壺15点。須恵器壺5点など。1~4は、土師器の壺。ロクロ成形。1 復元口径14.5cm。淡褐色。赤褐色粒子など。(2)。2 復元口径12.4cm。外面斜方向ヘラ削り。(一括)。3 復元底径6.4cm。外面体部下端ヘラ削り(回転)。(19)。4 復元底径4cm。暗灰色。雲母など。体部下端ヘラ削り(手持ち)。(1)。5~6は、須恵器の壺。5 内面ナデ。外面叩き目。(3)。6 復元頸部径14.2cm。(16)。



第150図 円形土坑実測図(1)

P262土坑 位置 F8-77G。覆土 しまりあり。径1mm以上の黄色スコリアを含む。1~4は、しまりあり。1: 黒色土。2: 黑褐色土。3: 黑色土。4: 黑色土。黄スコ多量。5: 明黄褐色土。黄スコ極めて多量。しまりにやや欠ける。規模 (cm) 128×118, 深さ28。遺物 無し。

P268土坑 位置 F8-87G。覆土 しまりあり。径1mm以上の黄色スコリアを多く含む。1: 黑色土。径1~3mmの焼土粒子を少量含む。2: 黑色土。1より暗い。3: 褐色土。4: 黑褐色土。5: 黑褐色土。4より暗いが鮮やか。6: 極暗褐色土。径1~5mm黄スコ多量含む。7: 暗褐色土。黄スコ多量。8: にぶい黄褐色土。9: 黄褐色土。径1~5mm黄スコ多量含む。10: 明黄褐色土。規模 (cm) 126×116, 深さ50。遺物 総数10点。内訳繩文土器細片3点、弥生土器7点。

P316土坑 位置 F8-74G。覆土 しまりあり。径1mm以上の黄色スコリアを多く含む。1: 黑色土。2: にぶい黄褐色土。3: 黑褐色土。4: 黑色土。5: 黑色土。黄スコ多量。6: 黑褐色土。黄スコ多量。7: 黑褐色土。径1~3mmの黄スコを極く多量含む。8: 黑褐色土。黄スコ多量。9: 灰褐色土。黄スコ多量。10: 黑色土。11: 黑褐色土。12: 明黄褐色土。径15~28mmロームブロックを含む。13: 明黄褐色土。規模 (cm) 128×122, 深さ46~52。遺物 総数6点。内訳繩文土器(早期・中期・細片)4点。弥生土器2点。

P386土坑 位置 F9-6G。覆土 黄色スコリアを多く含む。4~6以外は、しまりあり。1: 黑色土。径1mm炭化粒子を少量含む。2: 黑色土。3: 黑褐色土。4: 極暗褐色土。しまりにやや欠ける。径1mm焼土粒子少量含む。5: 黑褐色土。径1mm炭化粒子・焼土粒子少量含む。6: 黑褐色土。しまりにやや欠ける。径1~5mm黄スコ多量含む。7: 黑褐色土。8: 黄褐色土。黄スコ多量。9: 黑色土。10: ZHB。規模 (cm) 径120, 深さ46, P1: 59, P2: 54, P3: 52。遺物(第153回) 総数62点。繩文中期土器、弥生後期土器、上部器(最多)、須恵器、打製石斧(第59回145)、黒曜石剥片など。1~2は、土師器の壊。1 復元口径15.4cm。(22, 18など)。2 復元口径12cm。(12, 19)。3~4は、土師器の碗。3 高さ7.8cm, 口径15.5. 丸底。赤彩。(35~37)。4 復元底径4.6cm。赤彩。(13, 11など)。5 土師器の鉢。復元口径12cm。赤彩。(14)。6 須恵器の壺。内面當て具眞。外面叩き目。(9, 16など)。

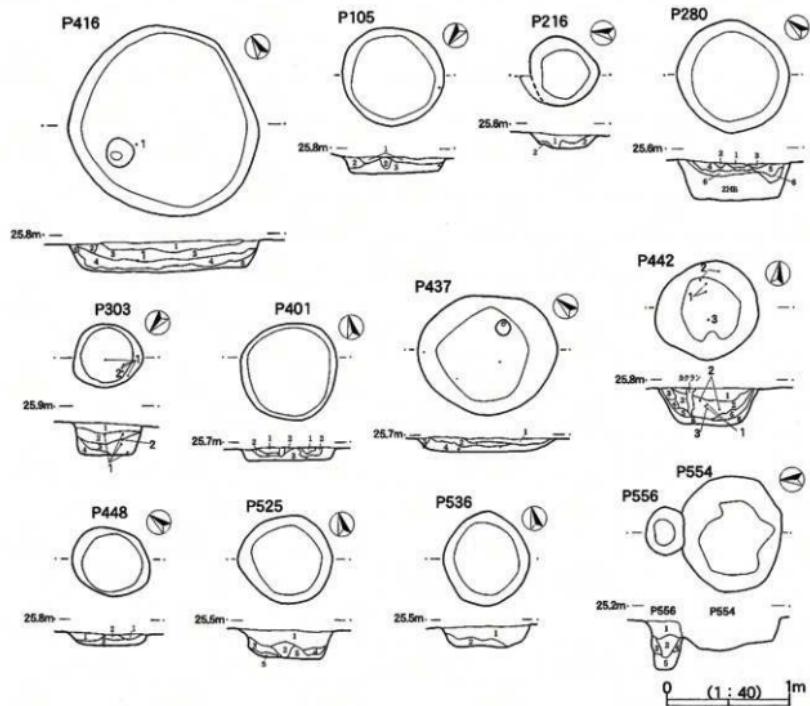
P518土坑 位置 F9-26G。P555風倒木痕を切る。覆土 しまりあり。径1~2mmの黄色スコリアを含む。1: 黑褐色土。2: 黑色土。3: 暗褐色土。4: 黄褐色土。5: 黑褐色土。6: 暗褐色土。黄スコ多量。7: 黑褐色土。黄スコ多量。8: 黄褐色土。黄スコ多量。9: 挖りすぎ。P555覆土。規模 (cm) 120×110, 深さ20。遺物 総数31点。繩文中期土器18点、土師器10点、黒曜石剥片2点など。土師器は、赤彩が認められる非口クロの壊などである。

P526土坑 位置 F9-15G。覆土 しまりあり。径1mm以上の黄色スコリアを多く含む。1: 黑褐色土。2: 黑色土。3: 暗褐色土。4: 褐色土。5: 黄褐色土。6: 褐色土。径1~28mm黄スコ・ロームブロック多量含む。7: 明褐色土。8: 橙色土。径10~25mmロームブロック含む。9: 黄褐色土。径10~31mmロームブロック多量含む。規模 (cm) 径100, 深さ50。遺物 総数3点。繩文早期・中期土器2点、上部器口クロ壊(内黒)1点。

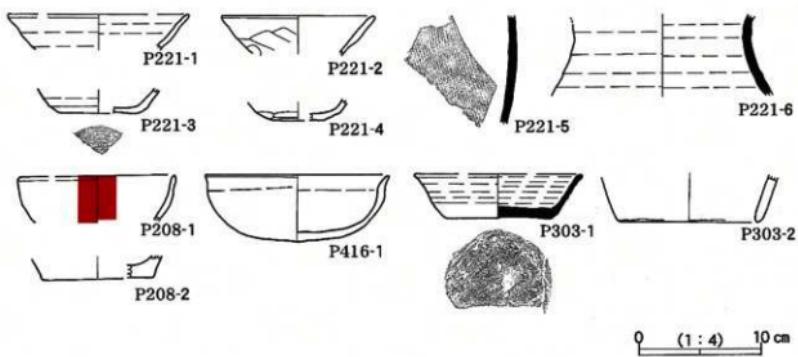
(第151回)

P416土坑 位置 F9-17G。覆土 しまりあり。径1~2mmの黄色スコリアを含む。1: 黑色土。2: 灰褐色土。3: 黑褐色土。4: 極暗褐色土。黄スコ多量。5: 明褐色土。径1~10mmの黄スコ多量含む。規模 (cm) 160×145, 深さ24, ピット40。遺物(第152回) 総数28点。繩文早期・中期土器20点、土師器4点、黒曜石剥片1点など。繩文土坑が密集する地点なので、繩文土器が多く含まれていた。1 土師器の壊。高さ5.4cm, 復元口径14.8. 丸底。淡橙褐色。細縞など。(5)。

P105土坑 位置 F9-30G。覆土 1: 黑色土。しまりにやや欠ける。径1~3mmの黄色スコリアを含む。2: 黑



第 151 図 円形土坑実測図 (2)



第 152 図 円形土坑出土遺物 (1)

褐色土。しまりあり。黄スコ多量含む。3：暗褐色土。しまりあり。径1～2mmの黄スコ多量含む。規模(cm)83×80、深さ12。遺物 総数3点。内訳縄文中期土器2点、土師器1点。

P216土坑 位置 F8-68G。D57住居跡を切る。覆土 1：黑色土。しまりあり。粘性富む。2：黄褐色土。堅軟。規模(cm)58×55、深さ11。遺物 無し。

P280土坑 位置 F8-77G～76G。覆土 しまりあり。径1mm以上の黄色スコリアを含む。1：黑色土。2：黄橙色ロームブロック。3：黒褐色土。4：灰黄褐色土。5：黑色土。6：明黄褐色土。黄スコ多量含む。規模(cm)92×90、深さ30。遺物 無し。

P303土坑 位置 F9-27G。D71住居跡を切る。覆土 しまりあり。径1～2mmの黄色スコリアを含む。1：黑色土。2：黑色土。1より暗い。3：黒褐色土。4：褐色土。径1～10mmの黄スコ多量。規模(cm)58×52、深さ27。遺物(第152図)総数21点。土師器11点、須恵器5点、縄文中期土器、焼成粘土塊1点など。1 須恵器の壺。高さ3.7cm、復元口径13.4、底径8.8。黒灰色。雲母、石英・長石細礫など。ロクロ成形。底外面ヘラ削り。(3, 5～7)。2 土師器の瓶。単孔。復元底径11.2cm。(4など)。

P401土坑 位置 F9-6G。覆土 しまりあり。径1mmの黄色スコリアを少量含む。1：黒褐色土。2：暗褐色土、褐色土。3：褐色土。規模(cm)81×78、深さ10。遺物 無し。

P437土坑 位置 F9-16G。覆土 しまりあり。径1～5mmの黄色スコリアを含む。1：黒褐色土、黑色土。径1mm焼土粒子少量含む。2：極暗褐色土。3：褐色土。4：明褐色土。規模(cm)116×98、深さ11、ピット22。遺物 総数8点。縄文中期土器2点、土師器5点など。

P442土坑 位置 F9-26G。P443土坑を切る。覆土 しまりあり。径1mmの黄色スコリアを含む。1：黑色土。2：黒褐色土。3：暗褐色土。径1～3mmの黄スコ含む。4：褐色土。5：明褐色土。6：ZHB。規模(cm)84×80、深さ31。遺物(第153図)総数17点。縄文土器2点、土師器壺5点・甕4点、須恵器甕1点、黒曜石剥片2点、焼成粘土塊1点など。1 土師器の壺。残存高4.6cm、復元口径12、丸底。赤彩。(13, 14)。2 土師器の甕。復元頸部径11.8cm。橙褐色。赤褐色粒子など。内外ナデ、ヘラ削り。(12, 15)。3 須恵器の甕。復元口径24.8cm、粗砂、細礫。ロクロ成形。波状文。(7)。

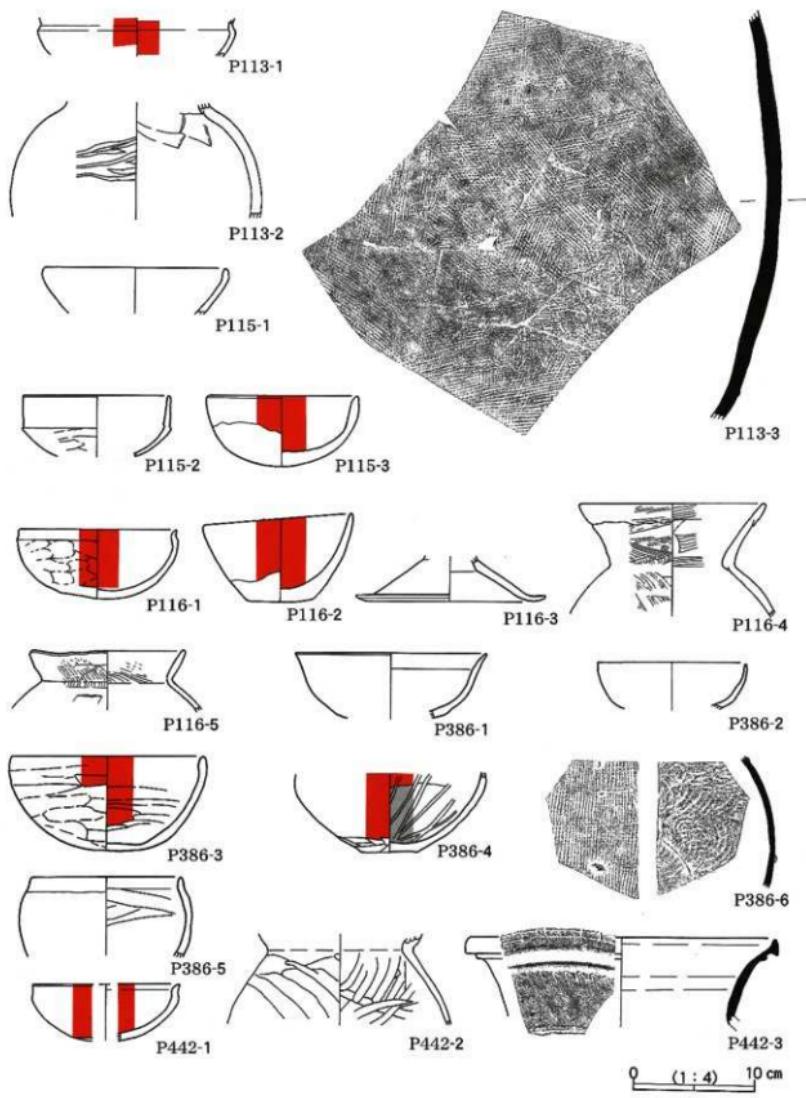
P448土坑 位置 F9-16G。覆土 しまりあり。径1mm以上の黄色スコリアを含む。1：黑色土。2：暗褐色土。径1mm焼土粒子少量含む。3：褐色土。規模(cm)67×55、深さ9。遺物 総数3点。内訳須恵器壺、黒曜石剥片、小甕、各1点。

P525土坑 位置 F9-15G。覆土 径1mm以上の黄色スコリアを含む。2～5は、しまりあり。1：黒褐色土。しまりにやや欠ける。径1～3mmの黄スコ多量。2：黑色土。径1～5mmの黄スコ含む。3：黒褐色土。4：暗褐色土。黄スコ多量。5：褐色土。規模(cm)77×73、深さ22。遺物 総数7点。内訳縄文土器2点、土師器小片2点、須恵器小片3点。

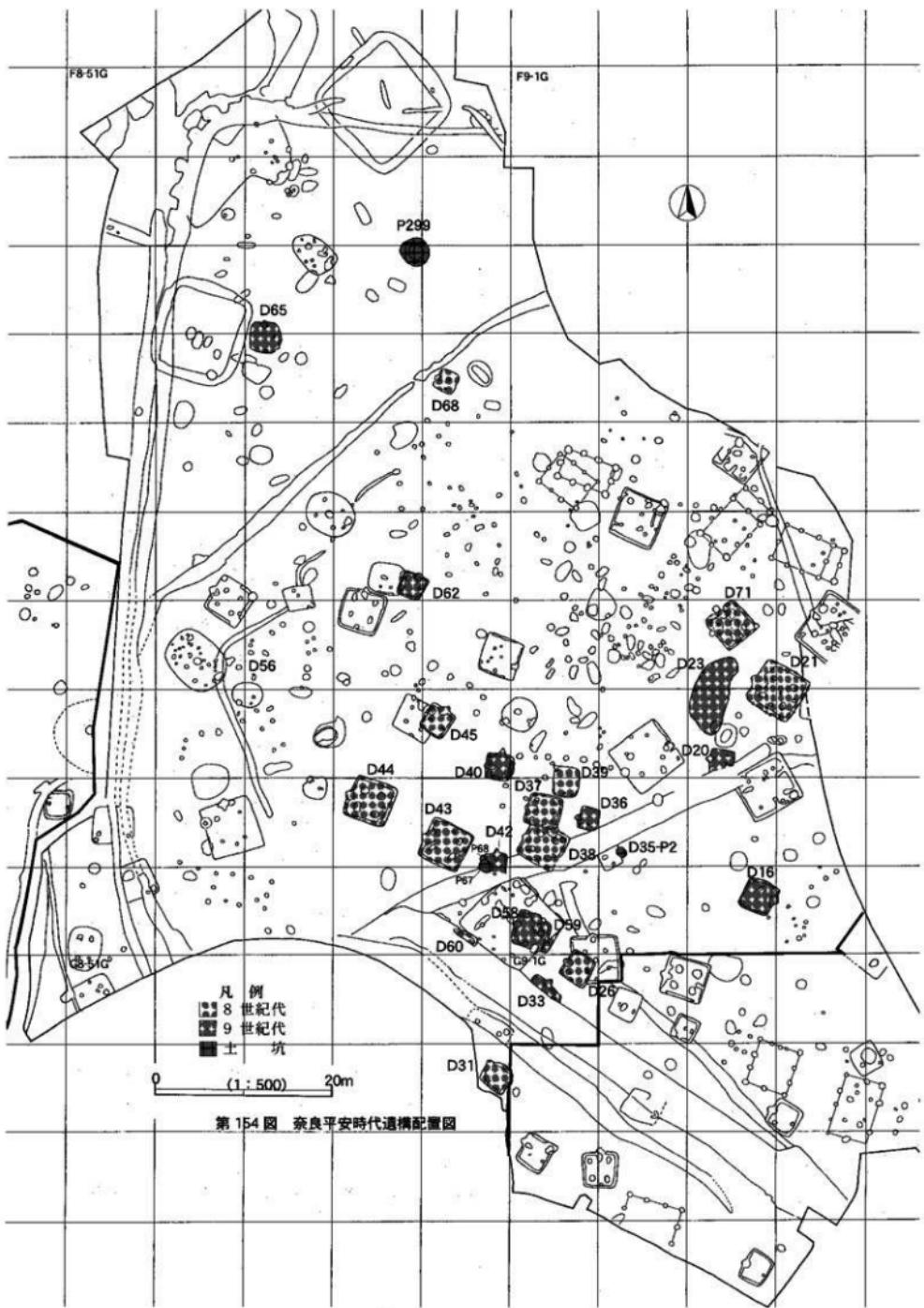
P536土坑 位置 F9-25G。覆土 しまりあり。径0.5～2mmの黄色スコリアを含む。1：暗褐色土。2：褐色土。規模(cm)77×71、深さ17。遺物 総数12点。内訳縄文土器3点、土師器小片6点、須恵器3点。

P554土坑 位置 F9-14G。P556に切られる。覆土 しまりあり。黒褐色土、暗褐色土、最下にローム混じりの明褐色土。規模(cm)95×80、深さ25。遺物 総数30点。内訳縄文中期土器5点、土師器21点、須恵器2点、黒曜石剥片、焼繕。

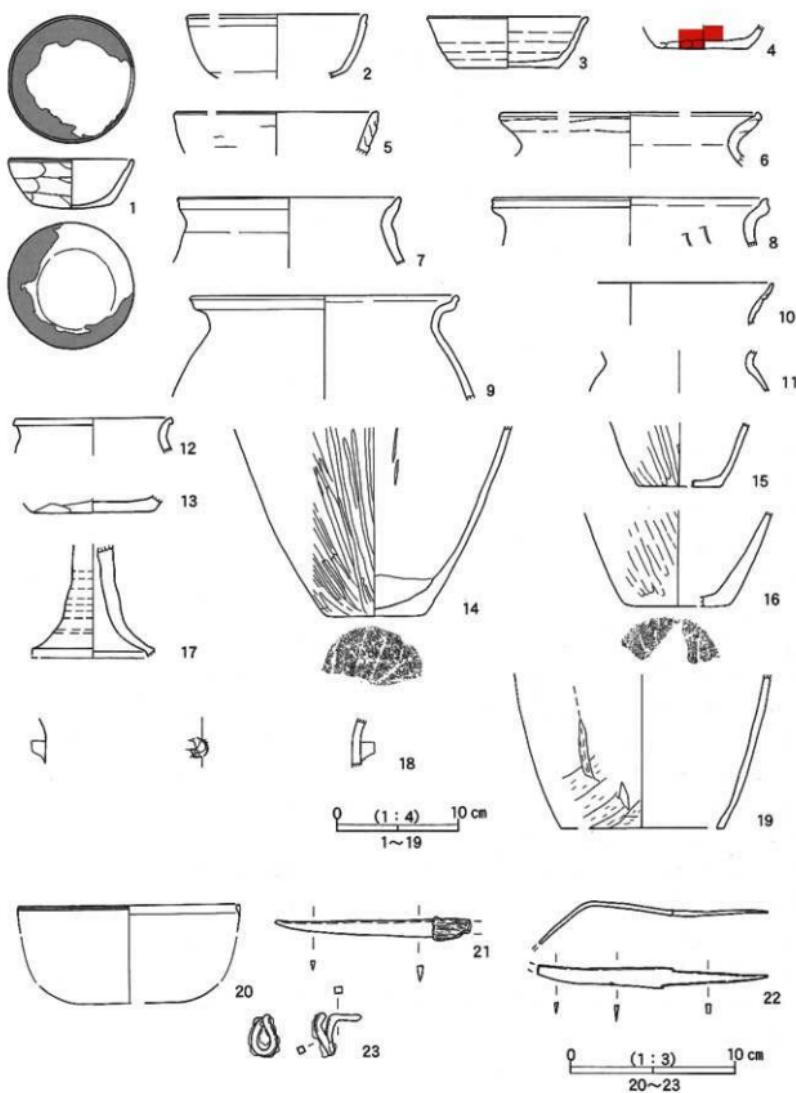
P556土坑 位置 F9-14G。P554を切る。覆土 径0.5～1mmの黄色スコリアを含む。1：褐色土。2：暗褐色土。3：褐色土。しまりにやや欠ける。4：褐色土。しまりにやや欠ける。5：暗褐色土。規模(cm)40×30、深さ40。遺物 無し。特記事項 柱穴状ピット。



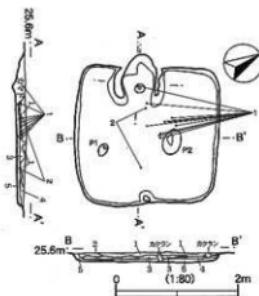
第 153 図 円形土坑出土遺物 (2)



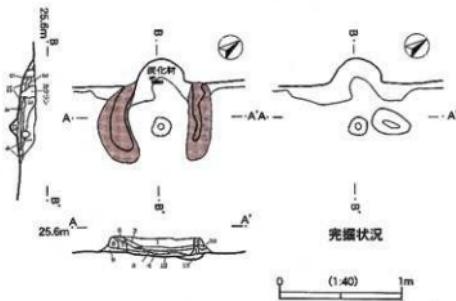
第154図 奈良平安時代遺構配置図



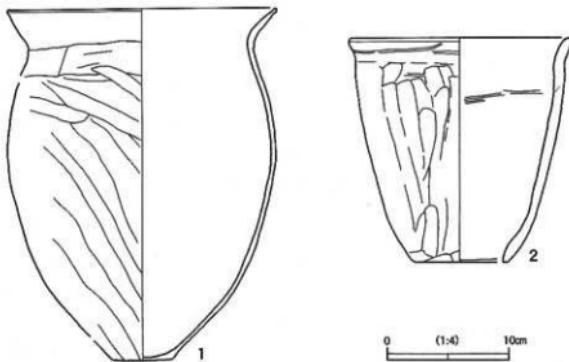
第 177 図 D71 住居跡出土遺物 (1)



第197図 D68 住居跡実測図



第198図 D68 住居跡カマド実測図



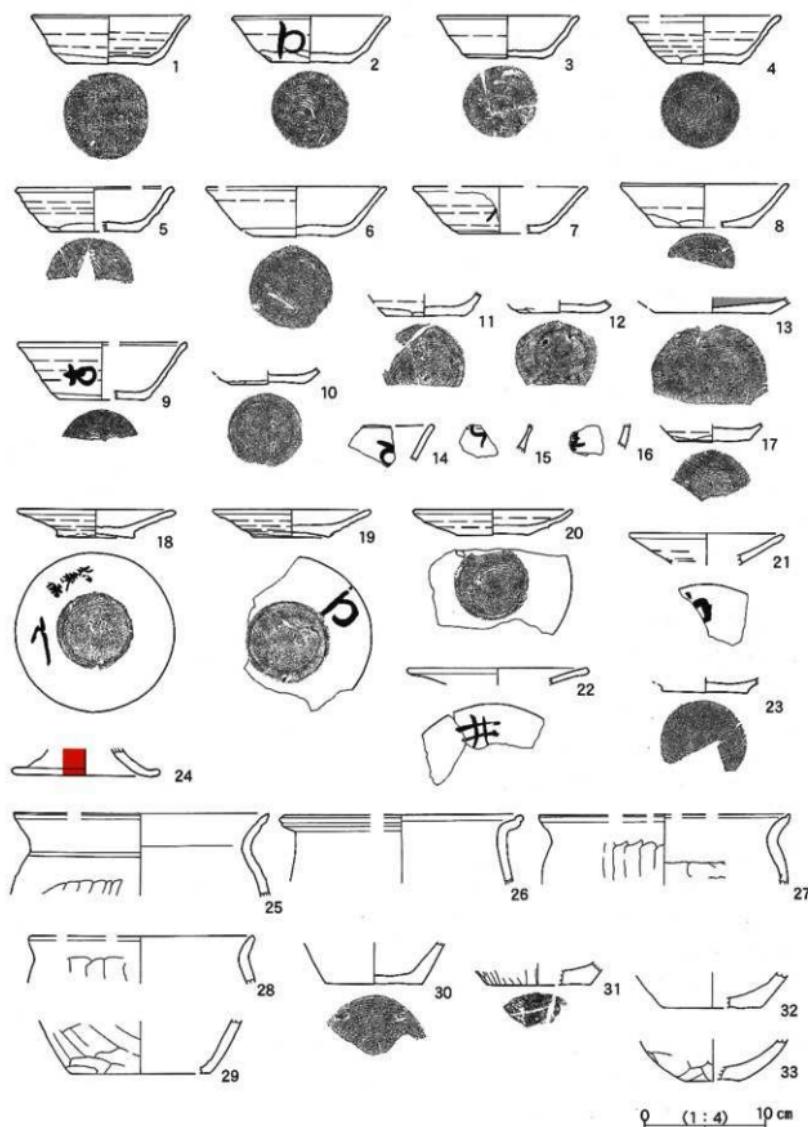
第199図 D68 住居跡出土遺物

7.5YR4/3(褐色土)。粘土、ローム、焼土粒子、炭化物を含む。12: ZHB. 13: ピット覆土。柱穴 P1・P2が相当か。P1は、覆土褐色～暗褐色土、深さ23cm。P2は、覆土褐色土で不明瞭、深さ10cm。

遺物 総数60点出土。繩文土器7点、土器片錐1点、弥生土器2点、土師器49点、鉄石1点。

1 土師器の壺。胴部の略半分が欠損。高さ28.9cm、口径22、底径4.7。橙色・暗褐色など。細砂。口縁部内外に横ナデ痕。内面ナデ。外面横～斜～縱方向のヘラ削り。底面：ヘラ削り。胴下半に煤が付着し、頸部直下にも黒色の帯が残っており、火にかけたことを示す使用痕跡であろう。武藏型の壺。(1, 19, 21, 23, 34, 36～38, 41, 47, その他小細片多数)。

2 土師器の瓶、単孔。高さ18.5cm、復元口径18、復元底径7.8。内面橙褐色。外面にぶい褐色。口縁は内外横方向ナデ。内面：縦方向ミガキ。外面縦～横方向のヘラ削り。(42・30・F8-94-2G)。



第 237 図 D23 遺構出土遺物 (1)

